

生産三要  
物ノ關係

ヲ奈何トモスル能ハサルヲ以テ皆資本トシテ使用セラレサルヘシ果シテ如此クナラハ國家ノ生産決シテ大ニ發達スルヲ得サルナリ國家ノ開明未タ進マサルトキハ信用ノ路未タ發達セス貸借盛ンニ行ハレス生産ニ從事スルモノ多クハ自己ノ資本ヲ使用セサルヲ得サルモノニシテ退守放銀ハ盛ンニ行ハル能ハサルモノナリ之ニ反シテ國民勞働ヲ厭ヒ進取ノ銳氣ニ乏シク少シク貯蓄ヲ爲セハ早ク己ニ退守ノ計ヲ爲シ左團扇ノ樂隱居ヲ希ヒ退守放銀ヲ主トスルトキハ所謂貸手アリテ借手ナキ勢ヲ生スルヲ以テ資本ノ效驗ヲ大ニスル能ハス亦國家ノ生産大ニ發達スルヲ得サルヘシ由是觀之進取放銀退守放銀相待テ盛ンナルハ國家富實經濟健康ナルノ兆候ト云フヘキナリ

右ニ述フル如ク天然物勞力資本ノ三者ハ生産上必要ノモノニシテ互ニ輔車唇齒ノ關係ヲ相爲シ決シテ欠クヘカラサル者ナリ然ルニ此三

者ハ如何ナル場合ニモ同一ノ度ヲ以テ生産上ニ使用セラル、ニアラ  
ス生産ノ種類ニ由リテ三者ノ關係ヲ異ニスヘシ則チ漁獵牧畜耕殖ノ  
如キハ天然力ニ依ルコト厚クシテ勞力資本ノ力ニ依ルコト薄ク製造  
商業ノ如キハ勞力資力ニ依ルコト厚クシテ天然力ニ依ルコト薄シ是  
故ニ草昧ノ世蠻民ノ未タ耕牧ノ業ヲ知ラス僅ニ水ニ漁シ野ニ獵シテ  
生計ヲ營ムニ當リテヤ天然力ニ依頼スルコト最モ大ニシテ河海ニ魚  
鼈乏シク山野ニ禽獸少ケレハ殆ント饑餓ヲ免レス是ヲ以テ人口増加  
シテ漁場廣濶ナラス獵野狹隘ナルニ至レハ遂ニ全然天功ヲ頼ムヲ得  
サルニ至ル於是水草ヲ逐テ牧畜ヲ爲シ多少人功ヲ以テ天然力ノ不足  
ヲ補ハンコトヲ謀ル是尙當時ハ土地廣濶ニシテ未タ定リタル所有主  
トテモ無ク自由ニ水草ノ繁茂スル所ニ就テ家蓄ヲ牧スルヲ得ルヲ以  
テナリ然レトモ牧畜ハ尙土地ヲ要スルコト大ナルヲ以テ人口繁殖シ

土地ノ狹隘ヲ覺ユルニ至ル時ハ此業ニ依リテ生計ヲ營ムノ難キヲ以テ更ニ居ヲ定メテ耕殖ヲ爲スニ至ルヘシ何トナレハ耕殖ハ牧畜ニ比スレハ土地ヲ要スルコト割合ニ小ニシテ多數ノ人口ヲ養ヲ得ヘケレハ也此三種ノ營業ハ均シク天然力ヲ要スルコト大ナルモノナレトモ漁獵ノ如キハ天然發生ノ魚鼈禽獸ヲ捕フルヲ業トスルヲ以テ其發生ノ多少ニ至リテハ濫漁暴獵ヲ防クノ外殆ント人力ヲ以テ如何トモスヘカラス故ニ其所在ニ就テ之ヲ捕エント欲セハ地面ヲ要スルコト非常ニ廣大ナルヘク人口稀少ナル時代ニアリテハ適當ノ業務ナレトモ天然力ニ依頼スルコトノ大ナルハ此業ヲ以テ最トス次テ牧畜ハ人功ヲ以テ牛羊雞豚ノ發育ヲ補フコトヲ得ヘキヲ以テ資本勞力ヲ幾何カ要スルコト(即チ小屋ヲ造リテ雨露寒暑ヲ防キ獸害ヲ防禦スル等)ハ増加スレトモ從ツテ天然力ニ依頼スルコトヲ減スヘシ然レトモ耕殖ノ

天然力ニ依頼スルコト少キニ及ハサルナリ尤モ耕殖ハ土地ヲ要スルコト小ナラス氣候ノ變動ニ由リテ收穫ニ豊凶アルヲ免レサルモノニシテ天然力ニ依頼スルコトノ大ナルハ論ヲ待タスト雖モ肥料ヲ以テ土地ノ膏腴ヲ増スヘク堤防ヲ築キテ洪水ヲ防クヘク水道ヲ通シテ田地ヲ灌漑スヘク又雜草ヲ芟除シテ植物ノ被害ヲ除キ深ク鋤歛ヲ加エテ地味ノ良質ヲ採ル等資本勞力ノ力ヲ逞フスルヲ得ルコトモ亦少ナカラス之ニ反シ製造業ノ如キハ土地ヲ要スルコトハ器械塲倉庫等ヲ置クヲ得レハ足り業ヲ執ルニハ多クハ春夏秋冬ヲ擇ハス年ニ豊凶ノ患ナク其要スル處ノモノハ重ニ器械建物粗生品勞力者ニシテ其成否ハ殆ント全ク人力ノ如何ニ在ルモノト云フヘク資本勞力ニ依ルコト甚タ大ニシテ天然力ニ依ルコト甚小ナリ故ニ開明進歩シ人口充溢スルニ至ルトキハ專ラ土地ニ依リテ生計ヲ營ムコトヲ得ス製造ノ業盛

ンニ起ルハ自然ノ勢ト云フヘキナリ由是觀之ハ諸營業ノ發達スルヤ  
自然ノ順序アルモノニシテ其時代ニ應シテ經濟ヲ行フトキハ則チ所  
謂最小ノ勞費ヲ以テ最大ノ結果ヲ得ヘキナリ蓋シ強テ人力ヲ以テ時  
代ニ應セサル營業ヲ起サント欲スルトキハ却テ天然ノ利益ヲ棄テ、  
不利益ニ就クモノニシテ勞費大ナルモ其收ムル所ノ結果ハ大ナルヲ  
得サルナリ或ハ云ハン太古蒙昧ノ人民ニシテ資本モ無ク又牧畜ノ業  
ヲモ知ラサレハ漁獵ヲ事トスルノ外如何トモスル能ハサルヘク未開  
ノ民ニシテ耕耘ヲ知ラス資本ニ乏シケレハ牧畜ヲ爲スノ外如何トモ  
スル能ハサルヘシ然ルニ今日開明ノ人民ニシテ資本ニ乏シカラス耕  
耘紡織ノ業一トシテ知ラサル所ノモノナケレハ何ソ如此順序ニ依リ  
テ事業ヲ執ルヲ須ンヤ天然力ニ依頼スルコトノ大ナル事業ハ却テ危  
險多シ寧ロ人力ヲ逞スル所ノ諸業ニ就クニ如カサルヘシト其言ヤ一

理アルカ如シト雖モ尙之ヲ熟考スルトキハ決シテ其然ヲサルヲ知ラ  
ン未開ノ人民ハ資本勞力ヲ以テ天然力ヲ利用スルヲ知ラサルヲ以テ  
天然力ニ依頼スルコト大ニシテ之ヲ使用セス故ニ其生産力小ニシテ  
危険モ亦大ナリ然ルニ開明ノ人民ハ能ク天然力ヲ利用スルヲ知ル是  
故ニ天然力ヲ用ユルコト小ニシテ資本勞力ヲ用ユルコト大ナレハ生  
産ノ勞費ハ從ツテ大ナラサルヘカラス生産ノ勞費大ナレハ從ツテ生  
産ノ結果小ナラサルヘカラス左レハ生産上天然力ヲ利用スルコト大  
ナル程其結果ノ割合ニ大ナルヲ得ヘキナリ土地餘リアリ人口未タ稠  
密ナラサルニ當リテハ勞力ニ乏シク而シテ土地ノ生産力ハ甚タ大ナ  
リ此時ニ當リテハ天然力ヲ使用スルコトノ大ナル事業ニ資本勞力ヲ  
用フレハ其効驗ハ他ノ事業ニ用ユルヨリ大ナルヲ常トス例エハ土地  
廣大ニシテ僅ニ種子ヲ播ク勞ヲ取りテ其收穫莫大ナル時代ニ當リ徒

ラニ製造ノ業ヲ營ミ木綿ヲ造出スルモ決シテ收支相償ハサルヘシコ  
レ前陳營業發達ノ順序ニ從フハ其勞費最モ小ニシテ生産ノ結果最モ  
大ナルカ爲メナリ夫レ人々經濟ノ目的トスル所ハ勞費ハ成ルヘク小  
ナランヲ欲シ報酬ハ成ルヘク大ナランコトヲ欲スルヲ以テ其勞ト報  
トヲ相比較シテ勞ノ割合ニ報ノ大ナルモノニ就クハ自然ノ勢ナルカ  
ユヘニ天然力ヲ使用スルコトノ大ナル事業ヲ執ルハ又自然ノ勢ト云  
ヘキナリ試ミニ英國殖民地ノ經濟ノ形况ヲ見ヨ皆其初メ執ル所ノ業  
ハ伐木牧畜耕耘ニシテ初メヨリ製造ノ業ヲ起スモノナキニアラスヤ  
自然ニ生長シタル樹木ヲ伐採スルハ勞費ノ最モ小ナルカ爲メナリ牧  
畜耕耘ヲ事トスルハ其土地廣漠ニシテ牧畜ニ適シ地方豐富ニシテ耕  
殖ニ利アルカ爲メナリ何ソ天賦ノ國ニ居テ初メヨリ齟齬トシテ勞費  
ノ多キ事業ニ就クモノアランヤ

右ノ理由ナルヲ以テ土地ノ耕殖ヲナスニモ初メヨリ沼澤ヲ疏シ瘠嶮  
ヲ披キ大ニ資本勞力ヲ費スモノニアラス人口ノ未タ稀少ナルニ當リ  
テヤ土地餘アレトモ勞力足ラス資本裕カナラス故ニ先ツ地味ノ最モ  
膏腴ニシテ運輸ノ最モ便ナル所ヨリ其耕殖ヲ始ムヘク其方法モ亦寬  
大ニシテ力メテ勞費ノ少ナカラシムニ欲シ僅ニ中央ノ地ヲ耕耘スルニ  
過キサルヘシ是レ頗ル疎漏ナルカ如クナレトモ土地ノ餘リアル時ニ  
ニ當リテハ復カニ土地ヲ使用スルノ容易ニシテ勞力ヲ省クコトノ大  
ナルヲ以テナリ歐洲人ハ北米合衆國ノ農業ノ景況ヲ見テ其疎漏ナル  
ニ驚ケリト云フコトアレトモ其疎漏ナル農業ヲナスハ方今合衆國ノ  
經濟ニ於テ其利ナルカ爲メナリ然レトモ人口ノ増加スルニ從テハ小  
兒カ饑餓ノ餓ヲ食フテ皮ヲ殘スカ如キ放逸ノ所業ヲ爲シテハ十分ノ  
食ヲ得ル能ハサルニ至ルヲ以テ漸次劣等ノ地ヲ使用シ瘠地ニ肥料ヲ



施シテ之ヲ肥ヤシ道路ヲ建築シテ遙ニ生産物ヲ運輸スルヲ謀リ又從來中央ノミ耕シタル土地モ今ハ隅々マテ鋤鋤ノ入ラサルナキニ至ルヘク農業ノ方法漸ク高度ニ達シ資本勞力ヲ費スコト次第ニ大ナルヘシ我邦農況ノ如キコレナリ

今圖ヲ以テ前陳耕地擴張ノ景況ヲ示サン此ニ圖ノ如キ一國アリトセ  
ンニ其地味ノ肥瘠ハ決シテ一樣ナルモノニアラサルカ故ニ假ニ甲乙  
丙丁ノ四種アリトシ甲地ハ地味ノ最モ豐饒ナルモノトシ乙地之ニ次  
キ丙地ハ又乙地ニ次キ丁地ハ最モ瘠貧ノ地トシ而シテ人民ノ居ヲ占  
メタルハ中央ノ處府トセン然ルトキハ其人民ハ先ツ地味ノ最モ肥沃  
ニシテ且ツ運輸ノ最モ便利ナル地即甲一ノ地ヲ耕ヤスヘシ何トナレ  
ハ此地ハ平地ニシテ山川等ノ運輸ヲ妨クルモノナシト假定セハ居住  
地ニ近キ處ハ運輸ノ便最モ大ナレハナリ然レトモ人口増加シテ甲一

ノ地ヲ耕ヤスノミニテハ居民ノ食ヲ得ル能ハサルニ至レハ甲二若ク  
 ハ乙一ノ地ヲ耕ヤスニ至ルヘシ何トナレハ甲二ハ地味ハ豊饒ナレト  
 モ少シク居住地ニ遠キヲ以テ運輸ノ不便アリ乙一ハ其近キカ爲メニ  
 運輸ハ至便ナレトモ甲二ノ地味豊饒ナルニ及ハスシテ二地ノ生産力  
 ハ凡ソ相同シカルヘケレハナリ尤先ツ甲二ヲ耕ヤスカ乙一ヲ耕ヤス  
 カハ其實際ニ於テ生産力ニ差アレハ其最モ大ナルモノヨリ始ムヘキ



ハ論ヲ待タス次テ人口増加シ甲一甲二乙一ノ地ヲ以テ食物ヲ給スルニ足ラサルニ至レハ更ニ前陳ノ理ニ由リ甲三乙二若クハ丙一ノ地ヲ耕ヤスヘク又進ンテ甲四乙三丙二若クハ丁一ノ地ヲ耕ヤスニ至ルハシ

(注意)

專修學校經濟學講義筆記(經濟大意)第四號ニ右ト相似タル圖アリ尤此處ノ説明トハ少シ趣キヲ異ニスルノミ

其然ル所以ノモノハ人口未タ稀ニシテ土地充分ニ餘アルトキハ農産物ノ價甚タ低キカ爲メニ地味瘠貧ニシテ運輸ノ不便ナル土地ヲ耕ヤスハ勞費ノ大ナルノミニシテ收支相償ハス然ルニ人口ノ増加スルニ從ツテ食物ノ需用増加シ其價騰貴スルヲ以テ資本勞力ヲ費ヤスコト大ナルモ尙收支相償ナフニ至ルヲ以テナリ英國ノルフォークノ地ハ

今ハ豐饒ナル土地ナレトモ往昔ハ甚タ瘠地ニシテ殆ント耕作ヲナサ  
 ヲリシモノナリ其經歷ヲ聞クニ初メ此地ニ「トルニップ」ヲ殖タルニ起ル  
 ト云フ元來「トルニップ」ハ人間ノ食用トモナルモノナレトモ之ヲ以テ羊  
 ナ畜フニ適當ナルモノナルヲ以テ之ヲ播殖シテ羊ヲ畜フトキハ羊糞  
 ノ爲メニ大ニ土地ヲ肥スコトヲ得ヘシ則チ此ノルフオルクノ地ヲシ  
 テ豐饒ニ至ラシメタルハ此方法ニ依リシモノナリ余嘗テ聞ク往時姫  
 路ノ藩ニ河合某ト云フモノアリ理財ノ才ニ長ス藩主ニ請フテ赭山ノ  
 草木モナキ所ニ辛菜ノ種ヲ施コシ遂ニ耕地トシテ使用スルニ至レリ  
 ト云フ蓋シ辛菜ハ我國ニ於テハ殆ント野生ノ植物ニモ均シク容易ニ  
 生長スルヲ以テ一度此種ヲ施ストキハ毎年種ヲ施サ、ルモ其散亂シ  
 タル種ヨリ翌年再ヒ成長スヘク之ヲ措クコト三四年ナルトキハ敢テ  
 大ニ勞力ヲ加ヘサルモ一莖ノ青草ナキ不毛ノ地カ植物ノ腐敗ニ依リ

テ豊カニ肥ヘ遂ニ耕地トスルヲ得ヘキナリ如斯ク東西各々少シク其  
方法ヲ異ニスルモ人口増加シテ土地狹隘ヲ覺ユルニ至レハ自然ノ勢  
一轍ニ出スルヲ見ルヘシ

左レハ土地アリト雖モ人口乏シケレハ勞力足ラサルヲ以テ十分ニ之  
ヲ使用スルヲ得ス又土地人口アリト雖モ貧ニシテ資本ニ乏シケレハ  
大ニ土地勞力ノ力ヲ利用スルヲ得サルヘシ之ニ反シテ勞力資本アリ  
ト雖モ土地ニ餘力ナケレハ生産上ノ勞費大ナルヘク勞力資本ノ生産  
力ヲ増スニアラサレハ生産ノ結果甚タ小ナラサルヲ得ス故ニ國家ノ  
生産ヲシテ大ニ盛ンナルヲ得セシムルハ生産要物三者ノ比例宜キヲ  
得ルヲ以テ必要トス方今英國ノ如キハ富貴ニシテ人口稠密資本勞力  
餘リアリト雖モ土地狹隘ニシテ殆ント地ニ餘力ナク農産ノ乏シキヲ  
苦ムヲ免レス東印度ハ土地廣濶肥沃人口繁殖シ土地勞力ハ餘リアリ

ト雖モ貧ニシテ常ニ資本ノ乏シキヲ憂フ西印度ハ千八百三十三年奴隸解放以前ニアリテハ土地勞力資本共ニ備具シテ頗ル繁榮ヲ極メタリト雖モ黑奴自由ヲ得テヨリ勞力乏シキヲ告ケ方今ハ土地沃饒餘リアリ資本家ハ英國人ニシテ其供給裕カナリト雖モ衰退ノ色アリ之ニ反シテ合衆國ハ沃野千里人口ハ細密ナラスト雖モ勞力ノ缺乏ヲ苦ムニ至ラス加フルニ資本充實シ殆ント三者ヲ兼備シタルモノ合衆國ノ如キモノハアラサルナリ之ヲ以テ英國ハ其富天下無雙方今尙ホ其富ヲ増加セサルニアラスト雖モ稍靜止ノ態アリ而シテ合衆國ハ其富殆ント將ニ英國ヲ壓シ尙駸々増加ノ勢萬國ニ冠タルモノハ抑モ故アルナリ近來英國ノ統計家マルホール氏カ世界ノ富ノ増加ヲ調査シタリト云フヲ見ルニ方今諸國ニ於テ毎年富ノ増加スル總額ハ凡ソ二十四億五千萬圓ニシテ其比較左ノ如シ

合衆國 八億二千五百萬圓

佛 國 三億七千五百萬圓

英 國 三億二千五百萬圓

獨乙國 二億萬圓

自餘ノ諸國 七億二千五百萬圓

右ノ額ニ就テ見ルトキハ合衆國ノ富ノ増加高ハ總額ノ三分一ヲ占ル  
モノナリ豈ニ盛ンナラスヤ

生産ノ要物ハ三者相待テ始メテ全キヲ得ルモノナルカ故ニ其一ニ於  
テ生産力ヲ増加スルトキハ從テ其物品生産ノ効驗ヲ大ニスルノ理ナ  
リ今如何ナルコトカ此三者ノ効驗ヲシテ大ナラシムルヤヲ見ルニ蓋  
シ分業ヲ以テ最トス凡ソ人間ハ開明ニ進歩スルニ從テ需用ヲ増加ス  
ルハ前日述ヘタルカ如キモノニシテ其需用ハ素ヨリ一身ニシテ供給

分業

スルコト能ハス故ニロビンソングールソーガ孤島ニ孤居シタルカ如キ時ニアリテハ衣食住ヲ始メ百般ノ需用ハ總テ自ラ生産供給セサルヲ得スト雖モ已ニ一家族ヲ爲スニ至レハ其從事スル所ノ業ヲ分チ夫ハ外ニアリテ魚ヲ漁シ獸ヲ獵シ妻ハ内ニアリテ割烹裁縫育兒ノ事ヲ司トルト云フカ如ク勞力ヲ分擔シテ生計ヲ營ムニ至ルヘシ若シ其業ヲ分タスシテ漁獵スルトキハ夫妻之ヲ共ニシ割烹裁縫スルトキモ亦夫妻之ヲ共ニセハ互ニ其力ヲ助クルヲ以テ多少ノ便ナキニアラサルヘシト雖モ山野ヲ奔走シ河海ヲ跋涉スルニハ女性ノ短處ナルヲ以テ往々夫ノ足手纏ト爲リ却テ夫ノ勞働ヲ妨クルノ嫌ナシトセス又肉ヲ割キ之ヲ烹燒シ或ハ衣服ヲ補綴スルハ男性ノ短處ナルヲ以テ往々粗暴等閑ヲ免レス却テ過燒破碎ノ患ナシトセス左レハ各其長所ニ依リテ勞力ヲ分ツハ則チ勞力ノ結果ヲシテ善良ナラシムルヤ疑ヲ容レサ



ルナリ故ニ亞米利加土人ノ最下ノ種族ニテモ尙男女ノ分業アリテ男子ハ戰爭漁獵ヲ事トシ兵器小舟ノ製作ニ從ヒ女子ハ薪割製革裁縫小屋ノ建築修繕小兒ノ養育ニ從事スト云ヘリ如此ク蠻野ノ人民ニ於テモ尙ホ勞力ノ分業ハ行ハル、モノニシテ社會ノ發達進歩シテ需用益々増加スルニ至レハ分業ニアラサレハ其需用ヲ満足スルヲ得サルナリ聞ク留針ノ製造ハ其完成ニ至ルマテ十八段ノ仕事アリテ先ツ鉄ヲ延ハシテ張金トスルヨリ之ヲ適當ノ長サニ切斷シ針尖ヲ作り針頭ヲ作りテ之ヲ針ニ付シ其針ヲ研キ紙ニ貫キ之ヲ包ム等ニ至ルマテ一人ニテ總テノ勞ヲ執ルトキハ最上ノ勞力者ニテモ一日ニ貳十本以上ノ針ヲ造クルコト能ハサルニ之ヲ分チテ其勞ヲ執ルトキハ十人ノ勞力者ニテ一日ニ五萬本ノ留針ヲ製シ得ヘシト云ヘリ分業ノ効驗ハ實ニ驚クヘキモノニアラスヤ若シ世ニ分業ト云フコト行ハレサレハ吾人

ハ皆自ラ耕ヤシ自ラ織リ百般ノ需用物皆自ラ供給セサルヘカラサル  
ヲ以テ衣食住ノ爲メニ汲々トシテ是レ日モ足ラサルナリ何ソ螢雪ニ  
書ヲ繙キ時ニ風月ニ吟咏スルニ暇アラシヤバスチヤ氏ハ吾人カ社會  
ヨリ受クル所ノモノハ其社會ニ與フル所ノモノヨリ大ナルヲ説テ云  
ヘルアリ曰ク試ニ村落ノ一工匠ノ如キモノニテモ之ヲ見ヨ此工匠ハ  
日々板ヲ削リ卓机箆笥ノ類ヲ造リ汲々トシテ努力スルモ尙獨リ其貧  
ヲ歎セン然レトモ其自ラ社會ヨリ受クル所ノモノヲ願ミレハ先ツ晨  
ニ起キテハ衣服ヲ更ムヘシ其衣服タル美麗ナルニアラサレトモ之ヲ  
製シテ衣服トナルニ至ルマテ費シタル所ノ勞力ハ實ニ巨大ナルヘシ  
亞米利加人ハ綿ヲ産シ印度人ハ藍ヲ製シ佛國人ハ羊毛麻苧ヲ産シ  
ラジル人ハ革ヲ産シ而シテ其物品ハ處々ニ運搬セラレテ紡キ之ヲ織  
リ之ヲ染メ之ヲ裁キ之ヲ縫フ等其勞力ハ枚擧ニ暇アラス而シテ工匠

自身ハ敢テ毫モ是等ノ勞力ヲ助ケルコトナカルヘシ次テ朝飯ヲ喫スレハ其食スル所ノ麵包ヲ得ルニ草菜ヲ披キ土地ノ周圍ニ墾シ之ヲ耕ヤシ之ヲ耘リ肥料ヲ施シ種ヲ播キ果實ヲ結ブニ至レハ被害ヲ保護シ之ヲ刈リ之ヲ舂キ粉ヲ製シ之ヲ漚子之ヲ燒クノ勞アリ而シテ其間用ユル所ノ器具ヲ製スルニ鐵鋼木材石材ヲ以テシ或ハ動物ノ力ヲ借り或ハ水車ヲ用ヒ或ハ漚力ヲ使フ等實ニ夥多ナリトス其他一日ノ中ニ砂糖モ用ユヘク油モ用ユヘク種々食物器物等其用ユル所少ナカラサルヘシ其兒ヲ學校ニ送リテ教育ヲ受ケシムルニ其學フ所ハ淺キモ今古學者ノ勉強勞力ヲ盡セシコトヲ思ヘハ實ニ大ナリトス戶外ニ散步スレハ道路ノ建築修繕瓦斯燈等ヲ見ルヘク若シ他人ニ訟ヘラル、コトアレハ之ヲ辨護スル所ノ代言人アリ之レカ權利ヲ保護スル所ノ判官アリ裁判ヲ宣告スル所ノ諸官吏アリ皆多少ノ智識ヲ有シ是等ヲ學

習シタル勞力ハ實ニ幾何ソヤ禮拜所ニ至レハ其聞ク所ノ説教モ能ク  
一朝一夕ニ爲シ得ヘキニアラス必スヤ數年學校ニ在リ又書齋館ニ籠  
居シテ故ヲ温ネ新ヲ探リ巨大ノ勞力ヲ積テ茲ニ至ルモノナリ旅行ス  
レバ其時ト勞力トヲ省ク所ノ鐵道アリ其鐵道ヲ作ルニハ地ヲ平坦シ  
山ヲ截リ谷ヲ埋メ河ニ梁シ軌道ヲ布キ車ヲ据ヘ蒸氣機關ヲ用フル等  
ノ勞力アリ其他此工匠カ用フル所ハ枚擧ニ暇アラサルヘシ由是觀之  
誰カ該工匠カ社會ヨリ受クル所ト其社會ニ與フル所トヲ比較シテ  
權衡ヲ得サルニ驚カサルモノアラシヤ故ニ余ハ斷シテ云ハントス  
該工匠カ一日ニ消費スル所ノモノハ自ラ千年ノ歲月ヲ費シテ生産  
スル所ヨリ尙多シト云々此言タルヤ經濟調和ノ現象ヲ形容シテ云  
フタルモノナレトモ抑モ又分業ノ効驗ニ外ナラス分業ノ功實ニ偉  
ナル哉

斯クノ如ク分業カ國家ノ生産力ヲ大ニスルハ左ノ利益アルニ由ル  
第一 勞力者ノ精巧ヲ増加スルコト  
第二 時間ト勞力ヲ省クコト  
第三 天性ノ長處ヲ全フスルコト  
第一如何ナル勞力ニテモ同一ノ所爲ヲ數々スルトキハ熟練ニ由リテ  
其力非常ニ發達スルモノ也分業ヲ行フトキハ勞力者一意ニ一箇ノ事  
ニ身ヲ投スルヲ以テ驚クヘキ精巧力ヲ増加スル者トスアダムススミ  
ス氏ノ言ニ據レハ製釘專業者ハ一日ニ二千三百本ノ釘ヲ製シ得ヘキ  
モ鍛冶師ノ只時々釘ヲ製造スルモノハ一日ニ八百本乃至千本ヲ製ス  
ルニ過キス是モ熟練ノ後ニテ然ルモノニシテ其初メテ鉄ヲ製スルモ  
ノハ僅ニ一日二百本乃至三百本ヲ製造シ得ルノミ又鑢磨リニ慣熟シ  
タルモノハ一分時間ニ二百回ノ磨擦ヲナシ櫛工ノ精巧ナルモノハ一

寸巾ノ間ニ四十齒乃至四十八齒ヲ有スル程ノ細密ナル櫛ヲ一日ニ四十枚乃至六十枚ヲ製シ縫針ノ製造所ニテ針溝ヲ造タルコトニ從事スル兒童輩ハ精巧ナルニ至レハ髮毛ノ端ニ孔ヲ穿テ他ノ毛髮ヲ貫通スルニ至ルト云フ吾人ト雖モ初メテ割烹炊爨ノ事ニ從フトキハ粗畧失策等モアルヘシト雖モ漸次慣熟スルニ至レハ炊爨ニ一步ヲ讓ラサルニ至ル可シ

第二事業ヲ分チテ人々各一部分ノ事ヲ執ルトキハ一個人毎ニ見ルトキハ偏僻者ニシテ殆ント獨歩スルコト能ハサルモノナレトモ合シテ一体トナストキハ頗ル完全ナル勞力者トナルヘシ若シ人毎ニ全部ノ業ニ成熟セシメント欲セハ一生涯學習ニ從事スルト雖モ恐ラク成業スルコト勿ルヘシ然レトモ之ヲ分チテ各一部分ヲ習ハシメハ習フ所ノ業簡單ナルヲ以テ修業ノ爲メニ費ス時日モ少ク容易ニ成業ニ至ル

ヘク又一人ニシテ種々ノ業ヲ爲ストキハ甲ノ仕事ヨリ乙ノ仕事ニ轉  
スル毎ニ使用スル所ノ器具ヲ換ヘ或ハ場所ヲ移ス等ノ爲メニ時間ヲ  
徒費スルコト少カラス且ツ業ノ變スル毎ニ所謂氣ヲ轉スルヲ以テ更  
ニ新業ニ馴レ染マテハ氣モ手モ落付カス多少時間ヲ要スルモノナリ  
故ニ學生ノ如キモ種々ノ事ニ心ヲ奪ハレ一意其就ク所ノ業ヲ修メサ  
ルモノハ浮々トシテ歲月ヲ過シ遂ニ何事モ仕出スコト能ハスシテ止  
ムモノ少カラス蓋シ屢々諸種ノ業ニ移ルトキハ兎角ニ心ヲ他事ニ奪  
ハル、ヲ以テ自然懶惰ニ陥リ易ケレハナリ

第三 三人々ノ長技ニ據リ事ヲ執ラシムルトキハ其生産力ヲ大ニスルコ  
ト少ナカラス例ヘハ前記ノ留針製造ヲ以テ見レハ鐵ヲ延ハシ之ヲ切  
ルカ如キハ強壯ナル男子ノ勞力ヲ要スヘキモ針數ヲ算シ之ヲ紙包ニ  
ナスカ如キハ兒童モ尙能ク之ヲ爲スヘシ若シ一人ニシテ之ヲナスト

キハ兒童ノ如キハ此業ニ從事スルコトヲ得ス而シテ強壯ナル勞力者  
 ニシテ婦女老幼ノナシ得ル事業ヲ執ラサルヲ得ス勞力ヲ損スルコト  
 大ナルヘシ又商業ニ長シタルモノニシテ鋤鋤ヲモ執ラサルヘカラス  
 精巧ノ細工人ニシテ不精巧ノ勞力ヲナサ、ル可ラサルトキハ國家ノ  
 勞力ヲ無益ニ費ヤスコト豈ニ少シトセンヤ加之國ノ地味氣候等ニ依  
 リテ或ハ甲品ノ生産ヲナシ得ルモ乙品ノ生産ヲナス能ハサルモノア  
 リ丙品ノ生産ニハ大ニ適スレトモ丁品ノ生産ニハ不十分ナルモノア  
 リ今分業ヲ以テ甲國ハ其國ニ於テ天然生産ニ適當ナル物品ヲ生産シ  
 乙國ハ亦甲國ニ不適當ニシテ己レニ適當ナル物品ヲ生産シ二國相互  
 ニ有無ヲ通シ長短ヲ換ハ其利スル所實ニ大ナルヘシ是レ外國貿易ノ  
 起ル所以ナリ聞ク英國ニ於テハ茶ノ供給ニ從事スルモノ僅ニ四萬五  
 千人ニシテ尙能ク全國ノ需用ヲ満足スルニ足ルト云フ是レ國際ノ分



業アルヲ以テナリ若シ英國ニ於テ自ラ茶ノ耕殖ヲナサントセハ地味  
ノ適セサル氣候ノ合ハサルカ爲メニ非常ノ勞力資本ヲ費ヤスニアラ  
サレハ容易ニ國民ノ用ヲ滿タスコト能ハサルヘシト雖モ國際ノ分業  
ニ由リ英國ハ他ノ物品ヲ生産シ遠ク東洋諸國ニ輸出シ之ヲ以テ茶ニ  
換フルコトヲ得ルカ故ニ能ク僅ニ四萬五千人ノ勞力ヲ以テ全國ニ供  
給スルコトヲ得ルモノナリ  
斯クノ如ク分業ハ生産ノ効力ヲ大ニスルヲ以テ分業ノ盛ンニ行ハル  
、ヲ得ル所ノ營業ハ分業ノ効驗益々大ナルヘシ農業ノ如キハ勞力ヲ  
用フルコト大ナリト雖モ盛ニ分業ヲ行フコト難キヲ以テ分業ノ効驗  
ハ製造業ニ及ハサルナリ如何程種蒔ニ巧ミナレハトテ年中種蒔ヲ事  
トシ如何ニ草取ニ長スレハトテ年中草取ニ從フコト能ハス地ヲ耕ス  
ニ季節アリ種蒔ニ時アリ收穫ニ期アリ又作物ノ種類モ一樣ナラス耕

殖ト牧畜ト相交ヘテ行フヲ利トス故ニ農業ニ於テハ盛ンニ分業ヲ行フコト能ハス之ニ反シテ製造業ニ於テハ盛ンニ分業ヲ行フコトヲ得ルヲ常トス時計製造ノ如キハ英國ニテ之ヲ百二部ノ業ニ分ツト云ヘリ實ニ盛ンナリト云フヘシニ於テハ分業ニ行フコトヲ得ル營業ナレハトテ時ヲ問ハス場合ヲ撰ハス分業サヘ行ナヘハ利アリト云ヒ難シ假令分業ニ據リ巨量ノ物品ヲ生産スルモ之ヲ消費スルノ需要ナケレハ其生産物ハ無用ノ贅品タルニ過キス故ニ分業ノ制限ヲ定ムルモノハ市場ノ廣狹ニアリト云フヘキナリ現ニ東京ノ如キハ大工泥工屋根職指物師等各其業ヲ分チ大工ハ建具ヲ造クルコト能ハス指物師ハ家屋ノ切組ヲ爲スコトヲ得ス各其職業ノ外爲シ能ハサルヲ常トスレトモ地方殊ニ僻地ニ至ルトキハ大工ハ泥工モナスヘク建具モ作ルヘク屋根モ葺クヘク殆ント一人ニ

シテ之ヲ兼ヌルヲ見ル又僻地ノ市街狹ニテハ一商店ニテ吳服紙類菘  
荒物等一切當用ノ物品ヲ賣ルモノアルハ敢テ奇トスルニ足ラサルナ  
リ然ルニ東京ニテ吳服店ニ至リ紙ハナキヤ葺屋ニ入りテ草履ハナキ  
ヤト云ハ、人々之ヲ以テ狂人ト稱スヘシ是レ東京ノ如キハ需要ノ廣  
キカ故ニ分業能ク行ナハル僻地ハ市場ノ狹キカ故ニ分業行ハレサル  
モノナリ  
分業ト相並ヒテ行ハレサルヘカラサルモノハ勞力ノ協同是ナリ勞力  
ノ協同ヲ分ツテ二種トス即チ單一協同混合協同是レナリ單一協同ト  
ハ數人連合シテ同時同所ニ於テ唯一ノ事業ヲ執ルヲ云フ例ヘハ重量  
ノ物品ヲ動スニ數人相共ニ勞働スル如キ是レナリ蓋シ之レ無ケレハ  
道路ヲ造リ橋梁ヲ架シ家屋ヲ築ク等ノ事行ハレサルヘシ混合協同ト  
ハ別時別所ニ於テ各異種ノ勞働ヲナシ其達スル所ノ目的チ一ニスル

ナ云フ例ヘハ木綿ヲ製造スルニ甲ハ綿ヲ産シ乙ハ之ヲ紡キ丙ハ之ヲ  
 織ルカ如キ是ナリ此協同若シ能ク行ハレサレハ生産決シテ發達スル  
 ナ得ス例ヘハ英國ハ木綿ノ製造甚盛ナリト雖モ其粗生品ナル綿ヲ  
 生産スルハ北米合衆國ニアリ然ルニ合衆國ノ農民ハ盛ンニ綿ヲ生産  
 スルモ之ヲ英國ニ運搬スルノ便ナケレハ合衆國生産ノ綿ハ其販路ニ苦  
 ムノミナラス英國ノ木綿製造ハ行ハレサルヘシ又合衆國ニ於テ綿ノ  
 生産ヲ減スルトキハ運搬ノ便アリト雖モ綿ノ供給續カサルヲ以テ英  
 國木綿ノ製造ハ衰微スヘシ又家屋ヲ造ルニモ地固メヲ爲シ建前ヲ爲  
 シ造作ヲ終ルモ屋根ヲ葺クモノ無ケレハ如何ナル金殿玉樓モ以テ居  
 トナスニ足ラス大工泥工ノ勞力ハ無益ニ歸スヘキナリ故ニ勞力ノ分  
 業行ハル、モ同時ニ勞力ノ協同行ハレサルトキハ分業ノ効驗ヲ全フ  
 ルヲ得サルナリ此勞力協同ヲシテ其宜シキヲ得セシムルニハ通運ノ

便チ盛ニスルヲ良トス通運不便ナル時ハ物品ハ一方ニ積堆スルモ一方ニ欠乏スルカ如キコトアリ爲メニ勞力ノ協同ヲ妨クルコト少ナカラス又事業ノ大小ニ由リテ大ニ三要物ノ生産力ヲ異ニスルモノアリ夫レ初メノ千ヲ得ルハ次テ萬ヲ得ルヨリ難シ事業大ナレハトテ其大ナル割合ニ困難ヲ増加スヘキモノニアラス蓋シ蒸氣機關ヲ取扱フニ五十馬力ノ機關ニテモ百馬力ノ機關ニテモ均シク一人ノ機關士ヲ要スヘク十人ノ職工ヲ使役スルニモ二十人ノ職工ヲ使役スルニモ同シク一人ノ監督者ヲ要スヘク機械ヲ運轉スルニ五十馬力ヲ要スルモノ、價ハ百馬力ヲ要スル機械ノ半價ナルヲ得ス大業ノ小業ニ比シテ利アルハ多辯ヲ待タサルナリ然レトモ大業ヲ行フニハ巨額ノ資本ヲ要スヘキヲ以テ大業ノ利アルヲ知レトモ行ヒ難ク小業ヲ以テ満足セサルヘカラサルコトアルヘク又市場狹隘ナルトキハ大業ヲ以テ生産ヲ盛

ンニスルモ販路ナケレハ徒ラニ物品ヲ積堆スルノミ遂ニハ一年ノ中  
幾分カ事業ヲ停止セサルヘカヲサルコトアルヘク其損失ハ却テ大ナ  
ルヘシ左レハ社會ノ富ヲ増加シ資本ノ融通ヲ大ニシ市場ノ區域ヲ大  
ニスルニアラサレハ大業ハ利アルモ行ハレ難シト知ルヘシ然レトモ  
大業ヲ以テ生産力ヲ大ニスルヲ得ルハ事業ノ性質ニ存スルモノニシ  
テ如何ナル事業ニテモ大業ハ小業ニ比シテ利アリト云フヘカラス例  
ヘハ我邦ノ織物製造ノ如シ之ヲ大業ニシテ巨館ヲ設ケ數百臺ノ織機  
ヲ備ヘ一日ニ數百反ヲ織出スモ毎戸室隅ニ織機ヲ備ヘテ製造スルモ  
敢テ生産力ニ大差ナカルヘシ却テ毎戸賃織ヲナストキハ生産力ヲ大  
ニスルモ計ルヘカラス何トナレハ一機毎ニ一勞力者ヲ要スヘク之ヲ  
一處ニ集ムレハトテ散スレハトテ勞力ヲ省クニアラス却テ巨館ヲ設  
グル費用丈ハ資本ヲ費ヤスコト大ナルニ過キサルナリ

## 分配

余輩ハ生産ノ大要ヲ講究セシヲ以テ今ヨリ分配ノ事ヲ説カントス分配トハ生産ノ結果ヲ配賦スルノ謂ニシテ之ヲ受クルモノハ土地資本勞力ノ三者ニアリ曾テ陳ヘタル如ク生産ノ要物ハ天然物勞力資本ノ三者ナリト雖モ天然物ハ人間ノ私有シ得ヘカラサルモノ多ク自由ニ之ヲ生産ニ使用スルヲ得ヘキヲ以テ敢テ之カ使用料ヲ拂フニ及ハス即チ空氣日光ノ如キハ之ヲ使用スルモ若干ノ金錢ヲモ拂フニ及ハサルモノナレハ經濟上格別研究スルノ必要ナシ然レトモ土地ニ至リテハ各個人カ之ヲ私有スルヲ得ヘキヲ以テ誰ニテモ自由ニ使用スルヲヘキモノニアラス故ニ之ヲ使用スルモノハ相當ノ使用料ヲ拂ハサル得ヘカラス已ニ百般ノ生産上土地勞力資本ノ三者ヲ要セハ生産ノ結果ノ分配ヲ受クルモ亦此三者ノ所有主ニアルヘキハ當然ノコトニシテ

土地ノ割前ハ地主之ヲ受ケ勞力ノ割前ハ勞力者之ヲ受ケ資本ノ割前  
ハ資本家之ヲ受クヘシ其地主ノ受クヘキ所ノモノヲ稱シテ地代ト云  
ヒ勞力者ノ受クヘキ所ノモノヲ稱シテ勞銀ト云ヒ資本家ノ受クヘキ  
所ノモノヲ稱シテ利子ト云フ請フ此三者ニ付テ之ヲ論セン  
地代トハ生産物ノ總高ヨリ勞銀利子ヲ控除シテ餘ル所ノモノニシテ  
土地ヲ使用スルカ爲メニ拂フ所ノ代價ナリ地代ハ素ト土地ノ固有セ  
ル天然力ヲ使用スルカ爲メニ拂フ所ノモノニ相違ナケレトモ通例ハ  
土地ニ投シタル資本ノ利子ヲモ包含スルモノナリ凡ソ土地ハ天然物  
ナリト雖モ之ヲ以テ生産ノ用ニ供スルニハ多少資本ヲ投下セサルヘ  
カラス如何ニ善良ノ土地ナリトモ草木ハ之ヲ除キテ開墾セサルヘカ  
ラス塀牆ヲ繞ラシテ植物ヲ保護セサルヘカラス用水ノ便ニ乏シケレ  
ハ或ハ水道ヲ通シ或ハ溜池ヲ築カサルヘカラス水害多キ地ナレハ堤



防ヲ築キテ之ヲ防カサルヘカラス左レハ毫モ資本ヲ放下セスシテ直  
チニ生産ニ使用スルモノハ無シト云フモ可ナルヘシ然レトモ是等ノ  
如キ土地ニ密着シテ土地ノ一部分トモ成リタル資本ノ利子ハ地代ノ  
一部分トナリ地代ノ増減ニ伴フテ増減スヘク決シテ相離ル、ヲ得サ  
ルモノナリ

前釋義ニ述フルカ如ク地代ハ勞銀利子ヲ控除シタル殘餘ニシテ其殘  
餘ハ生産ノ場合ニ依リテ異ナルヘク從テ地代ニ大小ヲ生ス其大小ア  
ル所以ノモノハ地味ノ肥瘠ト地位ノ良否ニ在リ夫レ土地ノ肥瘠同シ  
カラサルトキハ同質同量ノ農産物ヲ生産スルニ資本勞力ヲ費ヤスコ  
ト大ニ相異ナルシ例ヘハ上等ノ地ナレハ鋤鋤ヲ加フルコトモ容易ナ  
ルヘク肥料ヲ施スコトモ少ナカルヘキニ下等ノ地ナレハ耕ヤスコト  
モ難澁ナルヘク肥料ヲ要スルコトモ多カルヘキヲ以テ其資本勞力ヲ

費スコト必ス大ナルヘシ又土地ノ位置便ナルト不便ナルトハ尙ホ其  
 土地ノ肥瘠ニ於ケルカ如キモノトス例ヘハ五里ヲ運搬スルト十里ヲ  
 運搬スルトハ道路ノ形情運搬ノ方法ハ同一ナリトシテ十里ヲ運搬ス  
 ル方其費用遙ニ大ナルヘシ故ニ市場ノ遠キトキハ生産ノ費用必ス大  
 ナルヘシ然レトモ其生産物ノ價ハ同市場ニ賣ラル、ニ於テハ皆同一  
 ナルヘシ假令某甲某ノ生産シタル米ハ武藏ノ豐饒ナル地ニ於テシ乙某  
 ノ生産シタル米ハ奥州ノ貧瘠ナル地ニ於テシタルカ爲メニ東京市場  
 ニ於テハ其米質同一ナリトセハ敢テ其價ニ高下アルノ理由ナシ然ルニ  
 事實斯クノ如クナレハ誰モ東京ノ需要ニ供給スルカ爲メニ殊更ニ遠  
 隔ナル奥州ノ瘠地ヲ耕ヤスモノナカルヘキカ如シト雖モ此地モ亦耕  
 殖セラル、ハ何ソヤ蓋シ理由ナクンハアラス元來農産物ノ價ハ生産  
 費用ノ最大ナル土地ヲ耕殖シテ其費用ヲ償フニ足ラサル可ラサルモ

ノナリ其故ハ已ニ耕地擴張ノ理由ヲ説キテ示シタル如ク耕殖ノ始マ  
ルハ先ツ最上等ノ地ヨリシテ漸々下等ノ地ニ移ルモノニシテ其下等  
ノ地ヲ耕ヤスニ至ルハ需要アルカ爲メナリ左レハ瘠地ヲ耕ヤシテ其  
産物ヲ賣ルモ其生産ノ費用ヲ償フニ足ラサレハ誰モ其地ヲ耕ヤスモ  
ノナカルヘシ其地ヲ耕ヤサレハ人民ノ食物ヲ得ル能ハサルヘシ然  
ラハ其貧瘠ノ地ヲモ耕ヤサシムルハ農産物ノ價ヲ高フシテ其生産費  
用ヲ償フニ足ラシメサルヘカラス是レ奥州ノ瘠地ト雖モ之ヲ耕ヤシ  
其産物ヲ以テ遙々東京ニ供給スル所以ナリ然ルトキハ其瘠地ヨリハ  
上等ノ地ヲ耕ヤスモノハ其生産物ヲ以テ勞銀利子ヲ支拂フテ尙ホ餘  
アルヘシ此殘餘ハ即チ地代ナリ地代トハ經濟上ニテ云フトキハ獨リ  
土地ノ借料ノミナラス地租モ亦地代ニシテ只其地主ニ入ルト政府ニ  
入ルトノ差アルノミ而シテ其地代ハ土地ノ肥瘠運搬ノ便否ノ等差大

ナルニ從テ益々大ナルヘキモノナリ此理ハ則チ英國ノリカード氏ノ  
發見シタルモノトス氏ノ言ニ曰  
此ニ荒蕪未耕ノ地アリ數人來リテ殖民セリトセン此地最上ノ土地  
餘リアル間ハ各々代價ヲ拂ハスシテ自由ニ之ヲ所有スルコトヲ得  
ヘク從テ地代モナカルヘシ然レトモ若シ其最上ノ地ハ假リニ僅々  
タル資本ヲ以テ「エーカ」ニ付キ「五」クワウトル」ヲ生産スト定メ其地  
カ總テ耕殖ニ用ヒラレ人口尙ホ益々増加スレハ第二等ノ地ヲ耕ヤ  
サ、ルヘカヲサルニ至ラン若シ第二等ノ地ハ假リニ同一ノ資本ヲ  
以テ「エーカ」ニ付キ「四」クワウトル」ヲ生産ストセハ此時ニ至リテハ  
其生産物ノ價騰貴シテ「四」クワウトル」ニテ其生産費ヲ償フニ足ルヘ  
シ後ニ來リテ殖民スルモノハ「五」クワウトル」ヲ得テ「一」クワウトル」ヲ  
地主ニ拂フモ自ラ地主トナリテ「四」クワウトル」ヲ得ルモ毫モ異ナル

コトナカルヘシ若シ尙入口増加スレハ第三等ノ地ヲ耕サ、ルヘカ  
ラサルニ至ラン此地ハ假リニ同一ノ資本ヲ以テ一「エーカ」ニ付キ三  
「クワウトル」ヲ生産ストセハ其生産物ノ價騰貴シテ三「クワウトル」ヲ  
以テ其生産費ヲ償ナヒ得ルニ至ルヘシ然ルトキハ第一等地ハ地代  
二「クワウトル」第二等地ハ二「クワウトル」ヲ拂フニ至ルヘシ  
右陳フル所ニ由テ之ヲ觀レハ地代ハ耕殖ニ使用シタル勞力資本ノ生  
産力最モ少キ土地ノ生産物ノ量ト勞力資本ノ生産力之ヨリ大ナル土  
地ノ生産物ノ量ト比較シタル差ニアルヲ知ルヘシ然ルニ諸國地代ノ  
景況ヲ見ルトキハ多クハ習慣ニ依テ定リ實際ニ於テハ上等ノ地ニシ  
テ却テ其次等ノ地ヨリ割合ニ少キ地代ヲ拂フモノアリ英國ノ如ク營  
業上競争ノ盛ナルハ萬國ニ冠タル所ニテモ尙ホ地代ヲ拂フニ此地  
ハ彼地ニ比シテ同シ勞力資本ヲ加フルモ生産ノ量ハ少キコト幾許ナ

ルヲ以テ此地ノ地代ハ幾許ナルヘシ抔ト考フルモノハナカルヘシ地  
主モ亦我地ノ地代ヲ請求スルニ付テ如此コトヲ考フルモノハナカル  
ヘシ故ニ世人或ハ此法則ヲ以テ實用ナシト考フルモノアリ勿論吾人  
カ飲食ヲナスニ當リテ我胃中ニ入りテ消化スル道理ヲ思ヒ呼吸ヲナ  
スニ當リテ血脈ノ運轉ヲ考フルモノハナカルヘキモ其法則ハ敢テ實  
用ナシト云フヘカラサルカ如ク地代ノ利モ亦土地ノ貸手借手共ニ之  
ヲ知ルモノハ少ク假令之ヲ知ルモノト雖モ敢テ實施スルノ考ナケレ  
ハトテ此理ハ競争ヲ以テ地代ヲ定ムルトキニハ必ス實際ニ發スル所  
ノモノナリ而シテ土地ノ貸借上競争充分ニ行ハルヘトセハ地主ハ此  
理ニ依リテ定マル地代ヨリ多クヲ得ント欲スルモ得ヘカラス借地人  
ハ之ヨリ少キ地代ヲ拂ハント欲スルモ亦得ヘカラスルモノナリ請フ  
例ヲ以テ之ヲ示サン

茲ニ甲乙ノ二地アリ乙地ハ最下ノ地ニシテ其生産スル所ノ米ヲ以テ  
僅カニ生産ニ費シタル所ヲ仕拂フニ過キサレトモ甲地ハ乙地ヨリ上  
等ノ地ニシテ其生産スル所ノ米ヲ以テ生産ニ費シタル所ヲ仕拂フテ  
尙百俵ノ殘餘ヲ得ヘシトセンニ前ニ設ク所ニ由テ見レハ此百俵ノ米  
ハ則チ地代トナルモノトス此場合ニ於テ甲地ノ所有者ハ其貸借人ニ  
向テ米百十俵ヲ地代トシテ拂ハシメンカ借地人ハ其地ヲ借ルトキハ  
收支相償ハスシテ毎年米十俵ノ損毛ヲ來スヘク寧ロ資本ヲ他ノ事業  
ニ使用セハ世間普通ノ利益ヲ得ラルヘキヲ以テ其地ヲ借ルコトヲ辭  
スヘク誰モ損ヲ爲シテ其地ヲ借ルモノナカルヘシ故ニ地主ハ百十俵  
ノ地代ヲ得ント欲スルモ之ヲ得ル能ハサルヘシ之ニ反シテ借地人ハ  
此地ヲ借ルニ九十俵ノ地代ヲ以テ地主ト約定センカ然ルトキハ此借  
地人ハ此地ヲ借リテ營業スルカ爲メニ世間普通ノ利益ヨリ多ク利益

ナ得ルコト米十俵ナルヲ以テ他ニ此地ヲ借ランコトヲ望ムモノ多カ  
 ルヘク或ハ九十二俵ノ地代ヲ拂ハント云フモノアルヘク或ハ九十五  
 俵ヲ拂ハント請フモノアルヘクスクノ如クシテ段々ニ競上ケ遂ニ九  
 十九俵ノ地代ヲ拂フモ尙普通ヨリ一俵丈多ク利ヲ得ヘキカ故ニ此地  
 代ニテ借ラント云フモノヲ生スヘシ然ルニ營業者ハ其費シタル資本  
 ナ挽回シ相當ノ利益ヲ得レハ満足スルモノナルカ故ニ遂ニ百俵ノ地  
 代ヲ拂フテ此地ヲ借ラント云フモノ生スルニ至リ競争ニ依リ此地ノ  
 地代ハ百俵ト定マルヘシ  
 如此苟モ競争ヲ以テ地代ヲ定ムルトキハ自然ノ理ニ適フモノニシテ  
 地主カ相連合スルカ又ハ農夫カ無法ノ競争ヲナスニ由リ借地人ハ勞  
 銀若クハ利子ノ一部ヲ割テ地主ニ與フルカ爲メ地代ハ理ニ依リテ定  
 マル額ヲ越ユルコトアルヘキモ永續スルヲ得ス若シ永續スルトキハ必



ス國家ノ經濟ヲ亂ルヘシアイヤランドニ於ケル「コチーヤ」ノ制以テ徵  
スヘキナリ然ルニ又地主ハ此理ニ由リテ定マル地代ヨリ少キ地代ヲ  
徵收スレハトテ農産物ノ價ヲ減スヘキモノニアラス如何トナレハ地  
代ハ素ト生産上ノ費用ニ關係ナキモノナレハナリ前ノ例ニ由リテ米  
百俵ノ地代ヲ納メ得ヘキ甲地ノ地主ハ借地料トシテ五十俵ヲ求メタ  
リトセン然ルトキハ此地ノ借地人ハ利益大ナルヘキヲ以テ隨分其生  
産シタル米ヲ低價ニ賣ルモ妨ナカルヘシト雖モ苟モ需用減セサレハ  
乙地ニテ生産シタル米ヲモ需用スヘシ然ルニ乙地ノ借地人ハ已ニ地  
代ヲ拂フ餘地ナキモノナレハ到底其生産米ヲ低價ニ賣ル能ハス左レ  
ハ其價ヲ減セサルモ買手アルヘキヲ以テ甲地ノ借地人獨リ米價ヲ低  
フスレハ只世人ニ恩惠ヲ施スマテノコトニシテ一般ニ米價ヲ低フス  
ルノ實效ナカルヘシ由是觀之ハ地代ノ多少ハ農産物ノ價ヲ左右スル

モノニアラサルナリ由基理之ハ此ノ如キニモ  
 已ニ地代ノ定マル所以ヲ明ニセハ地代ハ如何シテ増減スヘキヤヲ論  
 セン右ニ論シ來ル所ヲ以テ見レハ地代ノ増減ハ耕地ノ伸縮ニアルハ  
 シ農産物騰貴ノ爲メ耕地擴張シテ一層下等ノ生産力少ナキ土地ヲ耕  
 ヤスニ至レハ從來地代トナスモノナキ土地モ地代ヲ生スヘク從テ其  
 以上ノ土地ノ地代ハ皆増加スヘシ例ハハ甲乙丙ノ三地アリ甲ハ米十  
 石乙ハ米八石丙ハ米七石ヲ生産スルニ生産ノ費用ハ各七石ナリトセ  
 ハ甲ノ地代ハ三石乙ノ地代ハ一石ニシテ丙ハ地代ト云フモノナカル  
 ヘシ然ルニ耕地擴張シテ一層下等ナル丁地ヲ耕ヤスニ至リ丁地ハ六  
 石ヲ生産スルニ過キサレトモ米價ノ騰貴シタルカ爲メニ六石ニテモ  
 生産費用ヲ辦スルニ足ラハ從來地代ノナキ丙地モ一石ノ地代ヲ生シ  
 乙地ノ地代ハ二石トナリ甲地ノ地代ハ四石トナルヘシ之ニ反シテ米

價下落シ七石ニテハ足ラス八石ニアラサレハ生産ノ費用ヲ辦スル能ハサルニ至レハ丙地ハ耕ヤサレス耕地減縮スヘシ然ルトキハ乙地ハ最早地代ヲ拂フコト能ハス甲地ノ地代モ減シテ二石トナルヘキナリ然ルニ農業法改良ノ結果ハ之ニ異ナリ若シ低價ノ肥料ヲ發見スルトカ大ニ勞力ヲ省畧スル方法ヲ發明スルトカ何ニモアレ從來ト同シキ勞力資本ヲ以テ從來ヨリハ多量ノ生産ヲナスコトヲ得ルニ至リタルニ敢テ人口ヲ増加スルコトナク農產物ノ需要ニ變動ナケレハ農產物ノ供給ハ需要ニ超ユヘシ此時ニ當リテ其需要ニ超過シタル物品ヲ他ニ輸出スル能ハサレハ其價下落スヘク最早從來用ヒタル最下等ノ地ヲ耕ヤスニモ相當ノ利益ヲ得ル能ハサルヘシ故ニ最モ貧瘠ニシテ位置最モ不便ナル土地ハ耕殖ヲ停メ耕地減縮シ地代モ亦減スヘシ然ルニ食價下落スレハ人口増加スルハ必然ノ勢ニシテ農產物ノ需要ハ必ス

増加スヘシ故ニ農業法ノ改良セララル、ニ當リ需要増加シ生産ハ増加  
 スレトモ敢テ充溢スルコトナケレハ從來耕ヤシタル丈ノ土地ハ依然ト  
 シテ耕ヤサル、カ又ハ一時耕地ヲ減縮スルモ需要ノ増加ニ由リ耕地再  
 ヒ擴張シテ従前ノ度ニ復スヘシ若シ此改良ノ爲メニ生産高ヲ倍スト  
 セハ前例ヲ引用スレハ甲地ハ二十石乙地ハ十六石丙地ハ十四石ヲ生  
 産スルニ至ル割合ニシテ地代ハ増加シテ少クモ八石トナルヘシ此場  
 合ニ於テハ農産物價ノ下落スルカ爲メニ消費者ハ其利ヲ被リ而シテ  
 地主モ亦其所得ヲ増加スルヲ得ヘシ然レトモ如斯改良ハ全國ニ及フ  
 コトハ漸次ニシテ右ノ如キ結果ニ至ルマテ農業者ハ地代ノ幾分ヲ私  
 有スルコトヲ得ヘク故ニ早ク改良ヲナシタルモノハ隨テ其地代ヲ私  
 有スルコト長カルヘシ  
 右ニ論スル所ニ由リテ見レハ運搬便益ノ發達勞銀ノ減少利子ノ下落

等何事ニモアレ生産上ノ費用ヲ減スルトキハ他ノ事カ同シケレハ地代ヲ増加スヘキノ理ナリ右ニ述フル如ク土地ノ生産ヲ増加スレハ地代ヲ増加スルヲ以テ之ヲ見レハ土地ヲ改良スルハ地主ノ利益タルヲ知ルヘシ元來世ノ開明ニ進ムニ從ヒ人口増加シ食物ノ價騰貴スレハ從ヒテ地代ヲ増加スヘク地主ハ何事ヲモナサス手ヲ拱シテ其歲入ヲ増加スルヲ得ヘキモノナレハ若シ加之ニ資本ヲ投シテ土地ヲ改良スレハ一層地代ヲ増加スルコト大ナルヘキハ明カナリ然ルニ借地農ノ法ニ於テハ容易ニ土地ノ改良行ハレ難キ情アリ地主ハ資本モ裕カナルヘク我資本ヲ以テ我土地ヲ改良セハ敢テ毫モ妨ナキカ如シト雖モ實際ニ就テ之ヲ見レハ土地ノ貸借ヲナスニハ五年十年或ハ九十九年ト年期ヲ定メテ契約スルヲ以テ定約年限中ハ其地代ヲ増加スルヲ得サルヘシ故ニ自ラ資本ヲ投シテ其土地ヲ改良スルモ直チニ自ラ其利ヲ

收ムルコト能ハス皆借地人ノ爲メニ利セラルヘシ之ヲ以テ永遠ニハ  
我利トナルニセヨ目下ハ他人ノ爲メニ資本ヲ投スルノ思アルヲ以テ  
我所有ノ土地ト雖モ容易ニ之ヲ改良スルコトヲ謀ラサルモノナリ借地  
人ニ在テハ其土地ヲ改良スレハ目下ノ利ヲ收ムルコトヲ得ヘシト雖  
モ定約満期ニ至レハ其土地ヲ返還セサルヘカラス假令之ヲ借得ルモ  
地代ヲ増加シテ其利ヲ地主ニ占有セラルヘキヲ以テ敢テ長久ノ計ヲ  
爲シテ他人ノ土地ノ改良ヲ謀ルモノニアラス故ニ借地期限ノ短キハ  
殊ニ經濟上宜シキヲ得タルモノニアラス借地期限ノ非常ニ短カキト  
キ借地人ハ肥料サヘモ十分ニ施スコトヲ厭ヒ却テ土地ヲ荒蕪ナラシ  
ムルニ至ルモノナリ換言スレハ借地期限ノ短キハ土地濫用ノ弊ヲ生  
シ一國ニ對シテ損害アルヲ免レサルモノナリ之ヲ以テ借地ノ改良ハ  
地主ト借地人ト協議整ハサレハ行ハレ難キモノトス之ニ反シテ持地

農ハ地主自ラ其所有地ヲ耕作スルモノナルカユヘニ此點ニ於テハ頗ル利アリトス然レトモ持地農ハ多クハ身代ノ小ナルヲ以テ資本ノ力ニ乏シク大ナル土地ノ改良ハ甚タ行ハレ難キモノナリ元來持地農ハ各自ノ勞力ヲ以テ耕作スルニ過キサレモノニシテ土地ノ區域甚狹隘ナレハ水道ヲ引クニモ隣地ノ所有者ニ協議セサルヘカラス然ルニ協議ヲ調フルコトハ容易ナルモノニアラス故ニ小改良例ヘハ肥料ヲ施ス位ノコトハ行ハル、ト雖モ遠大ノ改良ハ容易ハ行ハレ難キ患アリ尤衆地主皆其利タルヲ知り一致共同セハ如何ナル改良モ行ナハレ難キニアラス方今借地農ノ盛ニ行ハル、ハ英國ヲ以テ最トス英國ノ土地ハ僅々小數ノ富民ノ專有スル所ト爲リ資本ヲ有スルモノト雖モ容易ニ土地ヲ買フテ農業ヲ爲スコト能ハス故ニ農業ヲナサントスルモノハ土地ヲ借り勞力者ヲ傭フテ農業ヲ營ムヲ常トス左レハ借地人即

チ小作人ハ皆堂々タル資本家ニシテ我邦普通ノ小作人ノ類ニアラス  
之ヲ以テ大仕掛ニ農業ヲナスコトヲ得ヘシ盛ンニ蒸氣器械ヲ使用ス  
ルヲ得テ所謂大業ノ利ヲ占ムルモノハ英國ニ在リ之ニ反シテ持地農  
ハ歐洲ノ大陸諸國即チ佛國那威瑞士以太利白耳義普魯士其他獨逸聯  
邦ノ諸國ニ於テ行ハル我國ノ如キモ此制盛ンニ行ハル此持地農ト云  
フハハゼントプロプライートルト稱シ僅小ナル土地ヲ有シ自ラ資本ヲ  
投シ自ラ勞力ヲ投シテ農業ヲ營ムモノナリ此制ニ據ルトキハ土地ノ  
狹小ナルカ爲メニ大仕掛ノ業ヲ爲シ器械等ヲ使用スルコト甚々難ク  
資本ノ乏シキカ爲メニ其使用シ得ル器具ト雖モ容易ニ改良スルコト  
ヲ得サル等ノ不利ヲ免レス然ラハ近隣ノ農夫相共同シテ資本ヲ出シ  
一ノ器械ヲ買入レ共有物トシテ使用セハ可ナルカ如シト雖モ耕作ニ  
ハ季節アルモノナレハ同時ニ同一ノ器械ヲ二人以上ニテ使用スルコ



トハ到底行ハレサルヘシ例ニハ權兵衛カ器械ヲ使用スルトキハ助八  
ハ袖手シテ其使用ノ終ルヲ待サルヘカラズ然ルトキハ大切ナル時期  
ヲ經過シテ耕作ノ期ヲ誤ルコトナキヲ保セズ好シ年々使用順番ヲ改ム  
ルモ最後ニ使用スルモノハ常ニ該器械ノ効用ヲ爲サ、ルニ至ルコトア  
ルヘシ是レ大仕掛ノ行ハレ難キ所以ナリ然ルニ此持地農ハ皆自己ノ  
所有地ニ農業スルモノナルカユヘニ其力ノ及フ限りハ永遠ヲ期シテ  
土地ノ改良ヲ謀リ注意深切ニシテ土地ヲ濫用セス其費ス所ノ資本勞  
力ノ割合ニ比較シテ其收穫スル所或ハ英國ノ大農業ニ及ハサルヘキ  
モ其地域ノ割合ニ比較シテ其收穫高却テ大農業ニ勝ルモノアルヘシ  
然ラハ則チ國家ノ經濟上ヨリ之ヲ見ルトキハ二者何レカ果シテ利ナ  
ルヤヲ斷言スルコト得サルヘシ好シ大農業ハ利ナレハトテ土地小分セ  
ラレテ數地主ノ所有タルカ地形伏起シテ平坦ニ乏シキカ勞力ニ事ヲ

缺カサルモ資本裕カナラサルカ等ノ事アレハ大業決シテ行ハルヘカ  
 ラス又持地農ニ利アリトテ英國ニ於テ土地ヲ小分シテ農業者ニ所有  
 セシムルモ必スシモ利ナカルヘシ  
 前ニモ述ヘタル如ク地代ハ競争ニヨリテ定マルモ現ニ諸國ニ行ハル  
 、有様ハ多クハ習慣ヲ以テ定ムルヲ以テ實際經濟上所謂地代ナルモ  
 ノヲ拂フハ稀ナリ請フ次テ諸國ニ於テ如何ナル習慣ノ行ハル、ヤヲ見  
 歐洲ニテ「メテロイヤ」ト稱スル借地ノ制アリ此方法タル借地人ハ土地ノ  
 良否ヲ問ハス生産高ノ半額ヲ地代トシテ地主ニ拂フニ起リシモノトス  
 然ルニ方今ハ必スシモ生産高ノ一半ヲ以テ地主ニ拂ハス以太利ノタ  
 スカニ「メテロイヤ」トハ生産高ノ三分ノ二ヲ地代トシテ拂フト云フ是故ニ「メ  
 テロイヤ」ノ借地法ト云フハ單ニ借地ヨリ生スル產物ノ若干分ヲ地代  
 トシテ拂フニ在リ其歩合ハ半額ナリ三分ノ二ナリ幾分ナリトモ皆重

ニ其地ノ習慣ニ據テ定ムルモノナリ我邦借地法ノ如キモ地方ニ據リテ歩合ヲ異ニスレトモ地代ハ生産高ノ若干分ト云フヲ以テ定ムルヲ常トスルモノ、如シ此方法ニ據ルトキハ習慣ヲ以テ競争ヲ抑制スルヲ以テ借地人ノ營業利益平均セス地主ハ多少其得ヘキモノヲ借地人ニ與フヘシ借地人ハ恩惠質ノ利ヲ得ルモノ少ナカラサルヘシ例ヘハ此法ニ依リテ十分ノ六ヲ地主ニ拂フモノトセハ最下等ノ地ヲ耕ヤスモノト雖モ生産高ノ十分ノ四ヲ以テ資本ヲ回収シ勞力ニ酬ヒ相當ノ利益ヲ収ムルモノト見認メサルヘカラス好シ相當ノ利益ヲ収ムルコト能ハサルモ資本ヲ回収シ勞力ニ報ヒ多少ノ利益ヲ収ムルヲ得ルニアラサレハ借地人ハ損失ヲ被ムルヘキヲ以テ敢テ其地ヲ借ルモノナカルヘケレハナリ若シ果シテ最下ノ地ヲ耕ヤスモノカ生産高十分ノ四ヲ得テ利アラハ其以上ノ地ヲ耕ヤスモノハ生産高ノ十分ノ四ヲ得

レハ異常ノ利益ヲ得ヘキ割合ナリ而シテ借地人カ其度外ニ得タル利益ハ地代トナルヘキモノナルヲ以テ地主ハ尙ホ之ヲ借地人ニ惠與シタルト同一ナリトス

「メテ」ヤ借地法ノ地代ハ如此ナレトモ地主ト借地人トノ關係ハ國ニ依リテ異ナリ決シテ一定ナラス則チ地主ヨリ資本ヲ補給スルハ通例ニシテ以太利ノピエドモントモテハ地主カ租稅ヲ拂ヒ建物ノ修繕ヲナシ借地人ハ牛馬器具種子ヲ辨シ佛國ノ革命前ハシヤムペーンニテハ通例地主カ牛馬ト種トノ半ヲ供シ借地人ハ勞力器具及租稅ヲ出シ或場所ニテハ其半ハチモ地主カ負擔スルモノアリ又ル<sup>ト</sup>シロンニテハ地主カ租稅ノ半ヲ負擔スルト云フ如ク各習慣ニ依リテ定マリ決シテ一定セス然レトモ總テ「メテ」ヤノ行ナル、所ニハ借地人ハ其借地ヲ容易ニ引上ラル、コトナキヲ通則トス其理由ハ此方法ニ據レハ

地主ト借地人トノ關係親密トナリ親戚朋友ノ如キ觀念ヲ生シ艱難相  
助ケ吉凶相慶吊スルニ至ルモノトス或ハ借地人ニハ祖先ヨリ繼續シ  
テ借地シ居ルモノモアルヘク或ハ地主ト借地人ハ幼稚ノ時ニ竹馬ノ  
友トナリ生長シタルモノモアルヘク故ニ地主モ亦己レノ地内ニ住ム  
モノニハ他人ノ地内ニ生レタルモノヨリ憐愍ヲ加エ自然少過失アルモ  
之ヲ恕スルニ至ルヘク加之ノミナラス假令地代ヲ遷延スルモ地主ニ  
於テ之ヲ放逐スルキハ一時糊口ニ困難スルヲ推察スル等彼ヲ思ヒ此  
ヲ想ヒ容易ニ無情ノ舉ヲナサ、ルナリビエドモントノ如キハ地主ハ  
租稅ヲ拂ヒ建物ヲ修繕シ而シテ地代トシテ生産高ノ三分ノ二ヲ徵收  
スレトモ借地料ノ歩合ヲ増ストカ他ニ多額ノ借地料ヲ拂フモノアレ  
ハトテ舊借地人ヲ逐出スカ如キコトハ絶テナシト云ヘリ我邦借地農  
即チ小作人ノ制モ多クハ此類ナリ故ニ借地人ハ代々同地ノ小作ヲ爲

シ其地ハ尙ホ殆ント私有地ノ如ク思フ情アリテ之ヲ濫用スルコトナク多少持地農ニ相類スル利益ナキニアラス然ルニ持地農ニ異ナルハ己レノ力ヲ以テ土地ノ生産ヲ増加スルモ其一部分ハ常ニ他ノ一方ニ利セラル、ニアリ故ニ地主ニ於テ資本ヲ投シテ改良ヲ爲セハ其利ノ一部分ハ借地人ニ占メラルヘク借地人ニ於テ骨折テ土地ヲ改良セハ其利ノ一部分ヲ地主ニ分タサルヘカラス之ヲ以テ互ニ相譲リ我先ツ進テ土地ニ資本ヲ投スルモノナキ嫌ナキニアラス左レハ地主ト借地人ノ關係親密ニシテ協議能ク整フモノハ此患ヲ免ル、ト雖モ其間能ク熟セサルカ爲メニ耕作ノ振ハサルモノナキニアラス

〔コチヤ〕ト稱スル借地ノ法ハ競争ニ依テ地代ヲ定ムルモノナレトモ其實地主ハ其得與フ丈ノ地代ヲ収ムルモノニシテ借地人ハ僅カニ今日ノ生活ヲ繫ク丈ノ収入ヲ得ルニ過キサルモノナリ其方法タル地代

幾許ト定ムルモノナレトモソハ只名ノミ其實ハ地代ヲ非常ニ高クシ  
借地人ハ實際之ヲ拂フコト能ハス甚シキハ地代ノ高却テ實際ノ生産  
高ヨリ多ク借地人ハ地代ノ未納常ニ絶ユルコトナキヲ以テ収獲多ク  
レハ多キ丈悉ク地主ニ有セラル、モノトス此制ハアヤランドニ於テ  
最モ盛ンニ行ハル、モノニシテ千八百四十八年ノ饑饉前ニハ全國殆  
ント此制ニ據レリ何故ニ如此ク度外ノ地代ヲ約スルヤト云フニ競争  
ニアリ元來英國ノ借地法モ競争ヲ以テ地代ヲ定ムト雖モ其競争ヲ爲  
スモノハ資本家ナルヲ以テ無謀ノコトヲナサス如何ニ借地料ヲ競ル  
モ極點前陳ノ地代ヲ超過セス之ヲ超ユレハ營業ノ利ヲ減スルヲ以テ  
ナリアヤランドニ於テハ競争ヲ爲スモノハ勞力者ノ間ニ在リ其生治  
ノ困難ナルカ爲メニ土地ヲ借ラサルモノハ殆ント食ヲ得ルノ路ナク  
只目下ノ活路ヲ得ルコ汲々トシテ營業ノ損益等ヲ慮ハカラス如何ナ

ル地代ニテモ土地ヲ貸サントスルモノアレハ之ヲ借ルト云フ勢ナリ  
 故ヨレノ力及ハサルコトヲ知ルモ其高キ地代ヲ拂フコトヲ約シテ  
 顧ミス仮令法外ノ約束ヲ爲シテ履行スル能ハサルモ身代ヲ洗フテ取  
 ルヘキモノナク地主モ食物丈ハ借地人ニ與ヘサレハ自ラ地代ヲ收ム  
 ルコト能ハサルヲ以テ止ムヲ得ス之ヲ猶豫シ負債トナシ置キ取レル  
 丈ヲ取ルモノトスルナリ左レハ借地人ハ常ニ負債ノ絶ユルコトナク  
 如何ニ勉強スルモ到底今日ノ域ヲ脱スルコトヲ得サルヲ以テ改良杯  
 ト云フコトハ夢ニモ見ル能ハス經濟ノ景況ハ決シテ進歩セサルノミ  
 ナラス土地ハ次第ニ瘠セ人民ハ努力セズ經濟ノ衰頽スルコト甚ダシ  
 尙ホアイヤランドニハ「コトイクル」ト稱スル一種ノ制アリ此方法ハ封  
 建ノ遺風ヲ存スルモノニシテ地主ハ勞力者ヲ使役スレハ其報酬トシ  
 テ勞銀ヲ與ヘス只肥料ヲ施シタル土地若干ヲ無料ニテ貸與スルナリ



故ニ取モ直サス借地人ハ勞力ヲ借地料トシテ地主ニ拂フモノトス何  
レノ國モ封建時代ニハ人民ハ土地ヲ所有セス諸侯ノ領地ニ住シ其地  
ヲ借テ耕殖シ事アレハ百姓ハ賦役ヲ出シ士族ハ銃槍ヲ執リテ軍ニ從  
フト云フ如ク勞力ヲ以テ借地ノ代ニ供シタリ此制タル敢テ大害ナカ  
ルヘシト雖モ勞力ノ效驗ハ必ス甚タ大ナルヲ得サルヘシ  
又アイヤランドノオルスタニ於テ一種ノ制アリ此方法ハ借地人カ資  
本勞力ヲ費シテ借地ヲ改良シ借地期限滿ルトキ其改良ノ效驗未タ盡  
キサルトキハ地主ヨリ其償補トシテ借地人ニ仕拂フアリ又新借地人  
ヨリ舊借地人ニ借地權讓渡ノ代トシテ拂フモノアリ兩法併セ行ハル  
ト云フ此方法タル借地人ハ其力アレハ顧慮スル所ナク充分土地ノ改  
良ニ力ヲ悉クスヲ得ルヲ以テ借地期限ノ滿ル前ニハ土地ヲ濫用シ  
テ地方ヲ荒敗スル等ノ患ナク頗ル便利ナリトス然レモ新借地人ニア

リテハ今ヨリ資本ヲ要スト云フ時ニ當リテ別ニ土地ノ改良代ヲ拂ハサルヘカラサルヲ以テ割合ニ多額ノ資本ヲ要スルノ不便ヲ免レサルコトアリ故ニ地主ヨリ其改良代ヲ拂ヒ年限ヲ定メテ新借地人ヨリ借地代ヲ拂フモノトセハ此方法ハ頗ル便利ナルカ如シ

勞銀トハ勞力者ノ勞働ニ對シテ與フル所ノ報酬ニシテ一日幾時間ノ勞働ニテ一ヶ月又ハ一週間又一日幾許若クハ勞力ノ量幾許ニ付何程ト定メ金錢或ハ物品ヲ支給スルモノトス而シテ其ヲ出スハ生産ノ資本ヨリスルモノナリ元來資本ハ國家ノ富ノ一部分ニシテ富ヲ増加スレハ資本モ亦増加スルモノナリ(勿論富ノ増加ノ割合ニ資本ヲ増加セサルモ)然ルニ生産營業ノ資本ハ其全額ヲ勞銀ニ給スルモノニアラス己ニ講シタル如ク資本ハ流動資本ト不動資本トノ二種ニ分ルモノモ

ノニシテ又其流動資本ハ勞銀基金ト粗生品ノ二種トナル請フ圖式ヲ

以テ之ヲ示サソ



上ノ圖線イロハハ資本ノ總高ヲ示スモノニシテ其イニ

ホノ分圓ハ不動資本ヲ表シニホロハノ分圓ハ流動資本

ヲ表ス而シテ其流動資本ハ又ニホヘノ粗生品上ニハ

ノ勞銀基金トニ分タルヲ圖ノ如シ

此勞銀基金ハ則チ勞酬ニ供スル財本ニシテ勞力ノ需用タリ左レハ勞

力者ノ勞銀ハ此基金ノ外ニ出ルコト能ハサルモノニシテ勞力者勞銀

ノ多少ハ實ニ此基金ノ大小ニアリ其大小ハ何ニ由リ定マルヤト云フ

ニ其重ナルモノハ

第一 資本ノ總高

第二 營業ノ性質

之ナリ已ニ述フル如ク勞銀ハ資本ヨリ供スルヲ以テ之ヲ見レハ其基

金ノ大小ハ資本ノ多少ニアルヘキハ敢テ辨テ待タサルヘシ然ルニ之  
 ニ由リテ直チニ勞銀基金ノ高ハ定ムルコトヲ得ス尙ホ資本ヲ分チテ  
 勞銀基金トナスヘキ歩合ヲ定ムル情件アリ即チ營業ノ性質之レナリ  
 例ヘハ同額ノ資本ナリト雖モ織物製造ノ如キ營業ヲナストキハ資本  
 ノ大部分ハ家屋機械粗生品(生糸羊毛綿糸等)等ニ用ヒサルヘカラサル  
 チ以テ勞銀基金トナル歩合ハ割合ニ小ナルヘク農業ニ此資本ヲ使用  
 セハ不動資本粗生品トナルヘキモノハ小ニシテ勞銀基金トナルヘキ  
 割合大ナルヘシ左レハ營業ノ性質ニ由リテ勞銀基金ノ大小ヲ決スル  
 チ見ルヘキナリ如斯クシテ勞銀基金ノ大小ハ定ムルモ尙ホ之ヲ受ク  
 ルモノ、多少即チ勞力ノ供給ニ由リテ勞力者ノ平均勞銀ヲ決セサル  
 ヘカラス是故ニ勞銀基金ノ高ニ變動ナクシテ勞力者ノ數ヲ増加スレ  
 ハ勞銀ノ平均高ヲ減スヘク勞力者ノ數ヲ減スレハ勞銀ノ平均高ヲ増

加スヘシ之ニ反シテ勞力者ノ數ニ變動ナクシテ該基金ヲ増加スレハ  
勞銀ノ平均高ヲ増加スヘク該基金ヲ減スレハ勞銀ノ平均高ヲ減スヘ  
シ若シ二者共ニ増加スルニ其比例ヲ同フセハ勞銀ノ平均高ハ敢テ變  
動スルコトナカルヘシ由是觀之勞力者ノ平均勞銀ヲ増サント欲セハ  
其基金ヲ増加スルカ若クハ勞力者ヲ減セサルヘカラサルヤ明カナリ  
勞銀基金ヲ増加セント欲セハ資本ヲ増加スルニ如クハナシ資本ヲ増  
加スルハ富ヲ増加スルニ在リ然ルニ富ヲ増加スレハトテ必スシモ其  
増加シタル割合ニ資本ヲ増加スト云フヘカラス資本ヲ増加スレハト  
テ必スシモ其割合ニ勞銀基金ヲ増加スルモノニアラス  
元來國家進歩シ富ヲ増加スルトキハ驕奢等ノ不生産ニ富ヲ消費スル  
コト増加スルモノニシテ國富發達スルニ從ヒテ富ヲ資本ニ使用スル  
割合ノ減スルヲ常トス故ニ増加シタル富ハ悉ク資本ニ供セラレサル

ハ勿論其資本トナルヘキ部分モ割合ヲ減スヘシ又資本ハ生産ノ發達  
 進歩スルニ從ヒテ機械ノ使用盛ナルヘク又鉄道電線築港疏水灌水  
 騰貴スルヲ以テ之ニ使用セラル、部分モ増加スヘク資本ノ總高ヲ增  
 加スルモ之ヲ以テ勞銀基金ニ供スル割合ハ次第ニ減少スヘシ然レト  
 モ世ノ進歩ハ勞力者ニ在リテ敢テ不利ナルニハアラス勞銀基金ハ增  
 スニハ相違ナシ只其増加スル歩合ハ他ノ資本ノ部分ニ及ハサルノミ  
 尙前ノ圖式ヲ借リテ其景況ヲ示サン



若シ資本ノ總高「イロハ」ニシテ依然動カサルニ不動  
 資本ハ「イニホ」ヨリ増シテ「イニト」トナラハ粗生品ハ減  
 カシテ「トニチ」トナリ勞銀基金ハ減シテ「チニハ」トナリ勞  
 力ノ需要ヲ減スヘキヲ以テ勞力者ヲ困シムヘシ然ル  
 ニ資本ノ總額増加シテ「チワカ」トナリシトキハ假令其

増加ノ割合ニ不動資本ハ「ナリ又」トナリ粗生品ハ「スリル」トナリ勞銀基  
金ハ「ルリウ」トナルカ如キ「ナク」不動資本ハ「ナリタ」トナリ粗生品ハ「タ  
リヨ」トナルモ尙勞銀基金ハ「ヨリウ」トナルヘキヲ以テ多少之ヲ増加ス  
ルヲ得ヘキナリ  
一般ノ傾向ヨリ之ヲ云ヘハ勞銀基金増加ノ景況ハ右ノ如シト雖モ尙  
ホ一步ヲ進テ之ヲ考フルトキハ其増加シタル資本ヲ放下スル營業ノ種  
類ニ由テ又少シク勞銀基金増加ノ景況ヲ異ニスヘシ例ヘハ其増加シ  
タル資本ハ重ニ農業ニ投セラレナハ勞銀基金ヲ増スコト大ナルヘク  
之ヲ製造業ニ投スルコト多ケレハ勞銀基金ヲ増加スルコト甚タ大ナ  
ラサルヘク若シ又之ヲ以テ盛ンニ鐵道ノ建築ニ使用セラレハ勞銀基金ハ  
殆ント増加スルコトナカルヘシ是故ニ資本ヲ増加セラレモ國中營業  
ノ方向ヲ轉シ勞力ヲ要スルコト割合ニ少キ營業ヨリ其之ヲ要スルコ

ト大ナル營業ニ資本ヲ移ストキハ勞銀基金ヲ増加スルコトアルヘシ  
之ニ反シテ國家ノ資本ヲ増加セサルニ突然大ニ鐵道ヲ築クトカ築港  
ヲナストカ國中ノ流動資本ヲ移シテ不動資本ニ變スルコトアレハ仮  
令資本ノ總高ニ變動ナキモ大ニ勞銀基金ヲ減シ勞力者ノ平均勞銀ヲ  
減スヘキナジテ勞力者ノ困難ヲ惹キ起シ爲メニ勞力ノ効驗ヲ失フニ  
至ルモ計ルヘカラス如此急劇ノ變動ハ國家經濟ノ平安ヲ害スルモノ  
ニシテ余輩ノ敢テ取ラサル所ナリ抑モ勞力者ノ増減トハ勞力ヲ賣ラ  
ントスルモノ、増加ニシテ之ヲ賣ラントスルモノハ國民ノ大部分ヲ  
占ムルモノナリ故ニ國家ノ人口増加スレハ勞力者ヲ増加スヘク之ヲ  
減スレハ又勞力者ヲ減スヘシ然ラハ則チ人口ノ増減ハ勞力ノ供給ヲ  
増加スル所ノ一大原因ト云ヘキナリ世運ノ進歩スルニ從ヒテ人口ハ  
常ニ増加スルヲ以テ勞力ノ供給ハ日ニ増加ノ傾向アリ而シテ之ヲ需用



スルモノハ勞銀基金ナルヲ以テ人口ノ増加急ニシテ勞銀基金増加ノ  
度ニ超ニレハ勞力者ノ平均勞銀ヲ減スヘシ人口ノ増加遅々トシテ勞  
銀基金増加ノ度ニ及ハサレハ平均勞銀ヲ増加スヘシ勞力者ノ爲メニ  
謀ルニ人口ノ増加ヲ抑制シテ常ニ勞銀基金ノ増加ニ後ル、テ力ムルニ  
如カサルナリ然ルニ勞力者ノ愚昧ナル如斯遠慮ナク營業繁昌シテ資本  
増加シ勞銀ヲ騰貴スルカ戰爭疫病外國移住等ノ爲メ人口ヲ減シテ勞  
銀ヲ騰貴スルカ或ハ物價下落ノ爲ニ勞銀ノ額ヲ増加セサルモ其購買  
力ヲ増加スルトキハ此機ニ乘シテ我生計ノ度ヲ改良スルコトヲ思ハ  
ス忽チ結婚ヲナシ一家ヲ設立シ數年ヲラスシテ人口ヲ増加シ勞力ノ  
供給ヲ増シテ遂ニ再ヒ勞銀ノ下落ヲ來シ生計ノ困難ヲ増加スルカ如  
キ情況アルハ實ニ嘆スヘキコトナリ尤勞力者ノ勞銀ヲ裕カニスルハ  
永遠ノ原因ト一時ノ原因トアルモノニシテ永遠ノ原因例エハ國富増

加シテ資本ヲ増加スルカ人口減少スルカ或ハ諸營業改良進歩ノ爲メ  
 物品ノ價格ヲ減少スルカ如キ永遠ニ維持スルヲ得ヘキ因由アリテ勞  
 力者ノ勞銀ヲ増加シタルトキハ人口ヲ増加スルモ非常ニ其度ヲ超ユ  
 ルコトナケレハ勞力者ハ其生計ヲ改良スル能ハサルマテノ事ニ止マ  
 レトモ一時ノ原因例エハ一時物品需要ノ方向ヲ轉シタルカ爲メニ或  
 ル一部分ノ營業大ニ繁昌スルカ又ハ一時繁昌ノ結果トシテ其物品ノ  
 供給充溢シタルニ其物品ハ勞力者ノ廣ク需用スルモノナルカ如キ只  
 一時ノ出來事ヨリシテ勞力者ノ勞銀ヲ増加シタルトキハ其増加シタ  
 リト思ヒシハ只一朝ノ夢ニシテ常ノ景況ニ復スルトキハ人口ヲ増加  
 シタル結果ハ我得ヘキ部分ヲ割カサルヘカラサルニ至リ従前ヨリハ  
 却テ一層ノ困苦ヲ増スニ至ルヘシ慎マサルヘケンヤ  
 人口増加ノ外尙ホ勞力ノ供給ヲ増加スヘキ一原因アリ即チ生産ノ方

法ヲ改良シテ勞力ヲ省約スルコト是レナリ勿論從來手仕事ナシタルニ一朝機械ヲ用ユルトカ又ハ改良ノ新機械ヲ以テ舊機械ニ換ユルトカ云フ如キハ一時勞力ヲ省クコト大ニシテ勞力ノ需用ヲ減スヘク勞力者ノ業ヲ失フモノヲ生シ尙ホ人口ノ増加シタルト同一ノ景況ヲ來スコトアルヘシ然レトモ勞力需用ノ減少生産法ノ改良ニ起リタルトキハ國家ノ富ヲ増加スルコト速ニシテ久シカラスシテ資本増加シ勞力ノ需要増加スヘク勞力者ノ困難ハ只一時ニ止ルヘシ而シテ通例ハ如此改良ハ一時ニ全國ノ諸營業ニ起ルモノニアラス漸次富ノ増加ニ伴フテ行ハル、ヲ以テ數万ノ勞力者カ業ヲ失フテ食ヲ道路ニ乞フカ如キニ至ルコトハナキモノナリ尤斯クノ如キ場合ニ於テハ手仕事ニ妙ヲ得タル精巧勞力者ハ其精巧ヲ施スノ途ヲ失ヒ普通ノ勞力者ト同一ノ勞銀ヲ以テ満足セサルヘカラサル不幸ニ陷ルモノアルハ免レ

ナル所ナリ夫以ニ爾其勢ハ今ヨリ少シク之ヲ論セシ元來人口増加  
 既ニ述ヘタル如ク人口ノ増減ハ勞力ノ供給ト直接ノ關係ヲ有スルハ  
 前ニ述フルカ如シ故ニ余輩ハ今ヨリ少シク之ヲ論セシ元來人口増加  
 ノ勢ハ甚ク熾シナルモノニシテ之ヲ抑制スルモノナケレハ二十五年ニ  
 シテ一倍スルモノナリト云ヘリ蓋シ人間ハ温帶ニ於テハ男ハ十四歳女  
 ハ十三歳ニシテ己ニ生理上父母タルノ力ヲ備フルニ至ルモノ(實際ニ  
 於テハ温帶中ト雖モ其地方ニ由リ多少ノ差違アレトモ)ナレハ假ニ一  
 對ノ父母二十歳ニシテ初メテ子ヲ舉ケ二十六歳マテニ四子ヲ舉クル  
 トセハ父母四十歳ニ至レハ己ニ一孫ヲ見ルヘク四十六歳ニシテ早ヤ  
 己ニ十孫ヲ見ルヘキ割合ナリ(尤四子ハ他ニ嫁スルカ婦ヲ迎フルモノ  
 ト假定シテ)豈ニ盛シナラスヤフオトセツト氏ハ嘗テ動物中繁殖ノ最  
 モ遅々タルモノヲ撰ヒ象ニ就テ其増殖ノ割合ヲ算シタルニ先ツ其初

産ヲ三十歳トシ九十歳マテハ子ヲ設クルモノトシ一生間ニ三子ヲ舉  
 グルモノトセハ一對ノ父母ヨリシテ五百年ノ後ハ千五百万ノ象ノ棲  
 息スルヲ見ルヘシト云ヘリ左レハアイヤラントニ於テ千七百六十七  
 年ヨリ千八百五年ニ至ルノ間其人口一倍餘ニ達シタルガ如キハ敢テ  
 驚クヘキ程ノ増加トハ云難カルヘシ如此勢ナルヲ以テ他ニ其増加ヲ  
 妨クルモノナケレハ諸國共ニ人間ヲ以テ充溢シ殆ント立錫ノ地ナキ  
 ニ至ルヘキナリ其然ラサル所以ノモノハ茲ニ之ヲ抑制スルノ力アル  
 ナリテナリ此力ヲ大別シテ四種トス

- 第一 自然ノ抑制
- 第二 人爲ノ抑制
- 第三 不時ノ抑制
- 第四 遠慮ノ抑制

第一凡ソ人間ハ衣食住ノ供給ナケレハ生活スルヲ得サルモノニシテ其供給物ヲ得ルハ土地ニアリ然ルニ土地ノ供給ハ限アルヲ以テ無限ノ需用ニ應スルニ足ラス故ニ人口増加シテ生産ノ増加之ニ應スルニ足ラサレハ十分ノ衣食ヲ得ル能ハサルヲ以テ仮令子ヲ擧クルモ生長スルコト能ハス夭折スルモノ甚タ多ク從テ人口ノ増加ヲ節制スヘシ之ヲ自然ノ抑制トス

第二人口ハ増加スルニ從テ食物ノ價騰貴スヘク爲メニ生計ノ困難ヲ増加スヘシ此時ニ當リ國內ニ人口ノ未タ稀少ニシテ尙裕カナル地方アルカ或ハ外國ニ天賦ノ殖民地アルトキハ其故郷ニアリテ苦マンヨリ寧ロ移住出稼等ヲナシテ生計ヲ緩メシコトヲ謀リ其地ノ人口ヲ減スルコトアリ之ヲ人爲ノ抑制トス

第三世ノ中ニハ種々ノ出來事アルニ戰爭ハ人間ニ欲ノアル限リハ到

底免レサルコトニシテ内亂アリ外戰アリ共ニ其事件ノ洪大激烈ナル  
程人命ヲ損スルコト甚クシ又疫病虎烈刺等ノ流行ハ往々非常ノ慘毒  
ヲ恣ニスルモノニシテ殊ニ人民衣食ノ粗薄ナル身體衛生ノ不如意ナ  
ル等ノ爲メニハ病毒ヲ盛ニスルコトアリ其他平素ノ生計困難ナレ  
ハ貯蓄ノ餘力ナク凶年饑歲ニハ食ヲ得ル路ナキアリ是等ノ事時ニ發  
シテ人命ヲ害シ人口ノ過増ヲ防ク之ヲ不時ノ抑制トス  
第四人民ノ智度上進スルトキハ事ヲナスニ前後ノ思慮ヲ生ス故ニ一  
家ヲ設置セシト欲セハ先ツ已レカ妻子ヲ養ナフヘキカアルヤヲ顧ミ  
ルヘク只ニ之ヲ顧ミルノミナラス又能ク己レヲ制スヘシ之ヲ以テ一  
時ノ情欲ニ任シテ輕舉スルコトナク財ヲ積ミ資ヲ貯ヘ其力一家ヲ維  
持スルニ足リ敢テ我社會ノ地位ヲ下サ、ルヘキヲ見テ然ル後妻ヲ迎  
フヘク子ヲ設クヘキナリ果シテ如斯ナレハ早婚ノ弊モナク無謀ノ結

婚モ少ナク從テ人口ノ濫増ヲ防クヘシ之ヲ遠慮ノ抑制トス  
 右第一第三ノ抑制ハ天爲ノ禍ナルカ自爲ノ禍ナルカニシテ避クヘカ  
 ラス第二ノ抑制ハ人口ノ充溢ヲ漏スノ良方便ト云フヘシ然レトモ移  
 住出稼等ニ出ルモノハ多クハ其地ノ壯丁ナルヲ以テ生産力ノ最モ大  
 ナル勞力ヲ失フノ嫌ナキニアラス只人口ノ充溢スルニ當テハ勞力ノ  
 精神トモ云フヘキ勞力者ト雖モ充分ニ其生産力ヲ逞フスル能ハサル  
 モノナルヲ以テ其人口ヲ減スレハ一時ハ後ニ殘ル所ノ勞力者ノ生産  
 力ヲ増加スヘク其生計ヲ緩ニスヘキヲ以テ敢テ國家ノ經濟ニ害ナキ  
 ノミナラス其利タルヤ少ナラサルナリ第四ノ抑制ハ頗ル宜シキヲ  
 得タルモノニシテ只ニ人口ヲ抑制スルノ結果アルノミナラス從テ生  
 スル所ノ利甚タ大ナリ第一第二第三ノ抑制ノ如キハ人口ノ増加ヲ抑  
 制スルニハ相違ナキモ人民進歩ノ効驗ヨリ生スルモノニアラサルヲ



各個勞力者勞銀ノ多少

以テ從テ減スレハ從テ生ルヘク敢テ勞銀ヲ増加スルニ足ラス勞力社  
會ノ改良ヲ望ムヘカラス之ニ反シテ遠慮ノ抑制ハ以テ永遠ニ勞力者  
ノ勞銀ヲ増加シ人民ノ生計ヲ裕カニシ勞力者生活ノ程度ヲ進メ勞力  
者ノ教育ヲ高フシ道德智識ヲ増進スル等其利益ハ枚擧ニ暇アラス不  
幸ニシテ勞力者ハ無智無謀己レヲ制シ深ク慮ハカルコトナク少シク  
餘力アレハ我生計ノ有様ヲ進ムルコトヲ思ハス忽チ情欲ニ制セラレ  
テ無謀ノ擧ヲナスモノ比々皆然リ之ヲ以テ遠慮ノ抑制ハ中等以上ノ  
社會ニ行ナハルモ敢テ勞力社會ニ行ナハルニ至ラス由是觀之ハ人口  
ノ抑制ハ現今未タ勞力者ノ勞銀ヲ永遠増加スルノ實ナキモノ、如シ  
勞銀平均高ノ多少ハ勞銀基金ノ大小ト勞力者ノ多少コアルヘキハ右  
ニ論スル所ノ如シト雖モ尙ホ一步ヲ進テ之ヲ見ルトキハ勞力者各個  
ノ間ニ勞銀ノ多少アリ請フ今ヨリ其理由ヲ研究セン

或ル勞力者ノ勞銀ヲシテ他ノ勞力ノ勞銀ニ比シ高低アル所以ノモ  
 ハ大要左ノ如シ  
 第一 仕事ノ合意嫌厭甚重ノ者ハ其ノ勞銀ハ其ノ勞力ノ比シ高  
 第二 學習ノ難易  
 第三 就業ノ連續間斷  
 第四 信任ノ大小  
 第五 成功ノ確不確  
 第一仕事ノ嫌厭スヘキモノ即チ不潔物ヲ取扱フトカ人情堪ヘ難キト  
 カ名譽ヲ毀損スルトカ艱苦ノ甚シキトカ健康ヲ害スルトカ云フ事業  
 ニ従事スル勞力ハ報酬ヲ以テ償補セサルヘカラサルヲ以テ其勞銀通  
 例大ナルモノトス左レハ肥料取扱烟筒掃除屠獸穢多妓歌舞妓抗夫ノ  
 如キハ割合ニ大ナル勞銀ヲ得レトモ勞力ノ意ニ適スルモノ即チ心神

老也  
 谷園

ヲ快フスルトカ心ニ樂シキトカ健康ヲ補フトカ名譽アルトカ義ノ爲  
メニ進ムトカ云フ如キ勞力ハ勞銀ノ外他ニ償フヘキ所アルヲ以テ却  
テ勞銀ハ割合ニ小ナルモノナリ故ニ漁獵菜園耕作園丁茶ノ宗匠碁客  
生徒師宣教師軍人詩家文人學士等ハ勞銀ノ割合小ナリ  
第二學習ノ容易ナル事業ハ之ヲ執ルニ資本モ勞力モ要セサレトモ其  
難キニ從テ修業ノ爲メニ費ス所ノ歲月資金共ニ大ナルヘシ左レハ業  
成ルノ後其償ヲ取ル所ナレハ誰モ難キ業ニ就クヲ欲セス勞力ノ  
供給ヲ得ル能ハサルヘシ故ニ修業ノ爲メニ費ス所ノ勞費大ナルモノ  
ハ勞銀ノ割合亦大ナルヘシ是レ不精巧勞力者ノ報酬ハ小ニシテ精巧  
勞力者ノ報酬ハ大ナル所以ナリ  
第三勞力ノ種類ニ依リ年中間斷ナク勞働シ得ルモノアリ數々休業セ  
サルヘカラサルモノアリ土方人足ノ如キモノハ需用廣キモノニシテ

假令日傭ナルモ殆ント毎日仕事ニ就ク能ハサルコトトテハナキ程ノ  
 モノナルカ故ニ敢テ餘分ノ報酬ヲ要セサレトモ泥工屋根職ノ如キハ  
 雨天ニハ仕事ヲナス能ハス寒中ハ休業セサルヲ得スト云フ如クナル  
 ナ以テ其勞働スル能ハサル時日ニ生計ヲナシ得ル丈ノ勞銀ヲ勞働ナ  
 ナシタルトキニ得サルヘカラス又唱歌師ノ如ク音聲ヲ賣ルモノハ演  
 劇者ニ比スレハ未ダ老衰セサルモ業ヲ廢セサルヘカラサルヲ以テ一  
 生間業ヲ執ル歲月短キモノナリ故ニ其報酬ハ演劇者ヨリ大ナルヲ常  
 トス此理由ナルヲ以テ月傭ノ勞力者ハ勞銀低ク日傭ノ勞力者ハ勞銀  
 割合ニ高シ又祭日祝日等ノ爲ノ年中休日ノ多キモ大ニ勞銀ノ多少ニ  
 影響スルモノニシテ耶蘇新教ノ國ニテハ勞力者ハ凡ソ一ケ年三百日  
 ノ勞働ヲ爲シ六十日ノ休日ノ手當ヲナセハ足ルニ羅馬教ノ國ニテハ  
 法皇クレメント第十四世以前ハ一ケ年凡ソ百五十日ノ休業日アリテ

○第一科教課及受持講師姓名ハ参考科ハ科外 一財產 法同上ばりまごる 法ハ参考科 土增島六一郎

経済学/駒井重格(講義)；山口正毅(編輯)

(英吉利法律講義録(1886(明治19)年度 第1年級))

145 ページ以降の講義録(37号以降)は非所蔵